


# 令和2年度 厚生労働省 介護の仕事魅力発信等事業 ターゲット別魅力発信事業（若年層向け）実施概要書

2021年3月31日

一般社団法人 FACE to FUKUSHI

- 
- 1. 介護のしごとと魅力発信等事業（若年層向け）**
  - 2. 各事業詳細**
    - (1)福祉教育事業**
    - (2)介護×新卒事業**
    - (3)非福祉系大学生事業**
  - 3. 全体総括**



# 1. 介護のしごとと魅力発信等事業（若年層向け）

## 2. 各事業詳細

(1)福祉教育事業

(2)介護×新卒事業

(3)非福祉系大学生事業

## 3. 全体総括

# 1. 介護のしごとと魅力発信等事業（若年層向け）

## 事業の目的・背景

介護事業所では、人材の確保が喫緊の課題となっており、政府主導のもと、介護職員の処遇改善を推進するための施策が講じられている。しかしながら、介護分野の有効求人倍率は、2020年9月時点で3.82倍と全産業平均（1.03倍）と比較して3倍以上高い水準である。

若年層向け魅力発信等事業では、若年層に対して福祉・介護業界の魅力を発信することで、興味・関心を高め、福祉・介護に関わる人を増やすことを目指す。本事業では、以下の2点を実現することが、福祉・介護の魅力発信に繋がると定義し、取り組みを実施する。

### ① 若者の福祉に対する興味・関心を向上させる

福祉の専門家が講師及びゲストとして、「中学生・高校生・専門学生・大学生」に対して福祉教育を実施することで、福祉・介護に対する興味・関心を高める。

### ② 法人と学生が出会う場を創造することで、進学・就職の選択肢とする

福祉・介護に興味・関心を持った学生が社会福祉法人と出会い、繋がる機会を創造することによって、より深く福祉の魅力を知ることができ、進学・就職の選択肢の一つとなることを目指す。

# 1. 介護のしごとと魅力発信等事業（若年層向け） 事業コンセプトと各事業の位置づけ

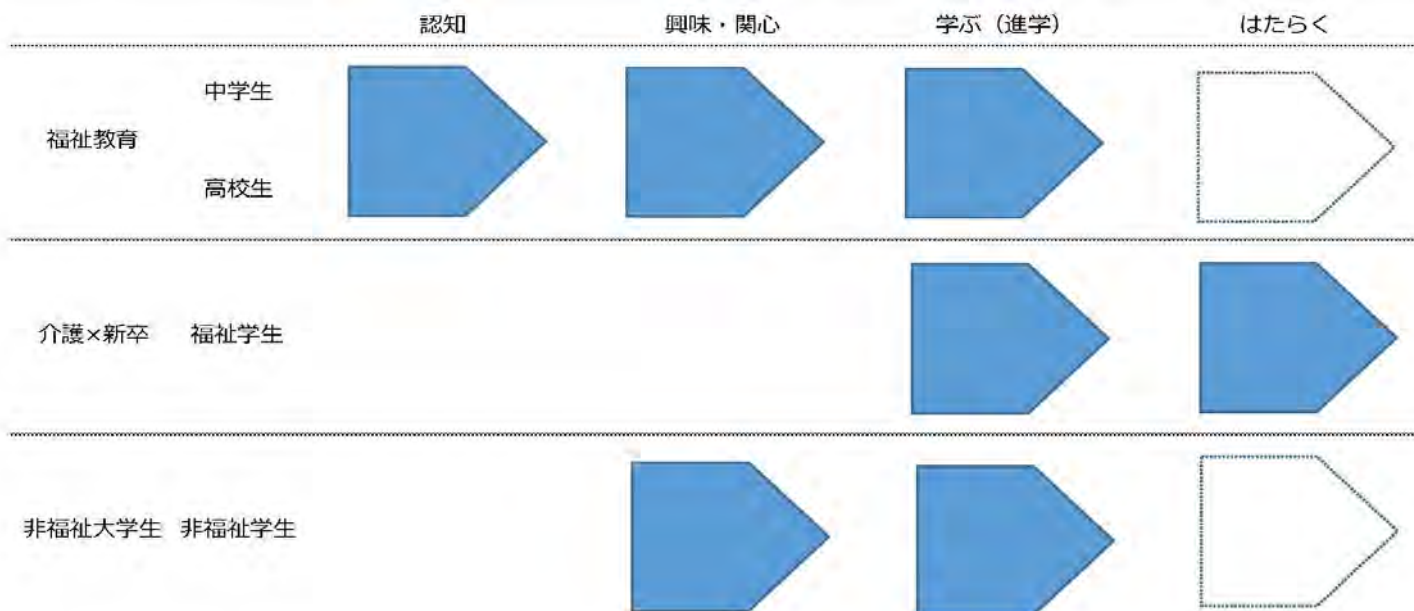
## 【本事業のコンセプト】

- ・ 介護だけではなく、福祉という幅広い枠組みで捉え、参加者の日常と福祉をつなげることで若者の興味関心の向上へとつなげること
- ・ 既に福祉に興味を持っている福祉学生を、福祉・介護業界の就職へとつなげること

## 【ターゲット別の意識変化・行動変化目標】

以下の図は、各事業のターゲットに対して、どのような意識変化・行動変化を起こすかを示したものである。

色付けてしている部分が主要な効果として期待すること、白抜き部分が副次的な効果として期待するものである。



※福祉学生とは、福祉関連のメルマガ等に事前に登録している、或いは、学校で福祉を学んでいる学生と定義する。

※非福祉学生とは福祉学部及び福祉学科に在籍していない学生と定義する。

# 1. 介護のしごと魅力発信等事業（若年層向け） 事業区分

各事業の区分は以下の通りである。

事業区分	プログラム	内容
1. 福祉教育事業	中学生・高校生への出張講座	4つのエリアで担当社会福祉法人の特色を生かし、福祉・介護と日常とつなげることで若者の興味関心へとつなげる <北海道> 全16回 <千葉> 全8回 <大阪> 全6回 <長崎> 全6回
2. 介護×新卒事業	オープニングセミナー/ 介護業界研究ゼミ	福祉に携わるゲストに登壇いただき、福祉学生の就職意欲を高める <オンライン> 全5回
	法人向け採用力向上研修	オンライン採用に必要なスキルを習得し、人材確保を目指す <オンライン> 全5回
3. 非福祉系大学生 事業	非福祉大学生への講義・イベント	非福祉学生がマイリティ当事者との対話を通じて、興味・関心を高める <早稲田大学> 全8回 <植草学園大学> 全6回 <上智大学> 全7回 <トークライブ> 全3回
	社会福祉法人との研究会	採用活動に必要な基本的なスキルを習得する <オンライン> 全4回
	学生と社会福祉法人の出会い	社会福祉法人が会うことで、就職の選択肢とする。 <オンライン> 全2回

# 1. 介護のしごと魅力発信等事業（若年層向け）

## 事業全体の成果

各事業区分における目的と成果は以下の通りである。

事業区分	目的	事業成果
1. 福祉教育事業	<ul style="list-style-type: none"><li>介護だけではなく、福祉という幅広い枠組みで捉え、日常とつなげることで、中学生・高校生の福祉・介護に対する興味・関心を高め、福祉分野への進路を選択肢の1つとする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>中学生・高校生の福祉・介護に対する興味・関心を向上させること。</li><li>福祉・介護を就職・進路として選択する人数を増加させること。</li></ul>
2. 介護×新卒事業	<ul style="list-style-type: none"><li>様々な角度から介護に携わっているゲストに登壇してもらうことによって、福祉学生の就職意欲をより一層高める。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>福祉・介護分野に就職を決意する人数を増加させること。</li></ul>
3. 非福祉系大学生事業	<ul style="list-style-type: none"><li>非福祉学生の福祉・介護に対する興味・関心を高め、福祉分野への進路・就職を選択肢の1つとする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>非福祉系大学生の福祉・介護に対する興味・関心を向上させること。</li></ul>

# 1. 介護のしごとと魅力発信等事業（若年層向け）

## 全体スケジュール

各事業の実施スケジュールは以下の通りである。

事業名	実施事項	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
福祉教育事業	中学生・高校生への出張講座		中学生・高校生への出張授業						
介護×新卒事業	オープニングセミナー/ 介護業界研究ゼミ				オープニングセミナー/介護業界研究ゼミ OP 第1回 (11/15) 第2回 (11/29) 第3回 (12/13) 第4回 (1/17) (2/7)				
	法人向け採用力 向上研修			第1回 (11/12)	第2回 (12/6)	採用力向上研修 第3回 (1/21) 第4回 (2/4)			第5回 (3/23)
非福祉系大学生事業	非福祉大学生への 講座・イベント		非福祉大学生への講義・イベント						
	社会福祉法人向け 研究会			第1回 (10/14)	第2回 (11/13)	第3回 (12/4)		第4回 (2/9)	
	学生と社会福祉法人 との出会い								マッチングイベント (3/13) (3/14)



1. 介護のしごとと魅力発信等事業（若年層向け）

2. 各事業詳細

(1)福祉教育事業

(2)介護×新卒事業

(3)非福祉系大学生事業

3. 全体総括

## 2. 各事業詳細 (1)福祉教育事業 実施概要

### ●事業の目的

- ・ 介護だけではなく、福祉という幅広い枠組みで捉え、日常とつなげることで、中学生・高校生の福祉・介護に対する興味・関心を高め、福祉分野への進路を選択肢の1つとする。

### ●実施内容

4つのエリアでそれぞれの特色を生かしながら、中・高生を対象に出張授業を行う。

<北海道> 全16回

①地域共生社会とわたし ②当事者のリアル ③大学生の福祉ピアエデュケーション

<千葉> 全8回

①地域共生社会とわたし ②当事者のリアル ③大学生の福祉ピアエデュケーション

<大阪> 全6回

①大学生の福祉ピアエデュケーション ②当事者講話

<長崎> 全6回

①瑞宝太鼓（当事者からの話）②高齢福祉×障がい福祉 ③若手職員のリアル

### ●効果測定の方法

対象：出張授業参加学生

内容：参加者の意識変容及び行動変容について

手法：紙面のアンケート調査

参加者へのインタビュー調査

## 2. 各事業詳細 (1)福祉教育事業 実施概要 (主要成果)

福祉教育事業にて、以下の成果が得られた。

No	KPI	成果	詳細内容
①	参加者数	「授業実施回数」 <b>40回</b> 「授業参加学生数」 <b>2,892人</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2021年3月31日時点での授業実施予定回数及び授業参加学生数をカウントしている。</li> <li>今回は4地域の特色を活かしながら、中学生・高校生の福祉・介護に対する興味・関心を高め、福祉分野への進路を選択肢の1つとすることを目的とした。</li> </ul>
②	参加者の意識変容	「福祉に関する関心度合い」 <b>授業前の関心度 34.1%</b> ↓ <b>授業後の関心度 83.0%</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各授業後のアンケートにおいて、授業参加前後の「福祉に対する関心」の度合いに関する質問を行った。</li> <li>質問に対して「非常に関心がある」「関心がある」と回答した割合が授業前は34.1%であったのに対して、授業後は83.0%となった。</li> </ul>
		「福祉業界への就職・進学」 <b>授業前の意欲度 10.5%</b> ↓ <b>授業後の意欲度 18.0%</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各授業後のアンケートにおいて、授業参加前後の「福祉業界への就職・進学意欲」に関する質問を行った。</li> <li>質問に対して「福祉分野への就職・進学を検討している」「福祉分野への就職・進学に興味・関心がある」と回答した割合が授業前は10.5%であったのに対して、授業後は18.0%となった。</li> </ul>
③	参加者の行動変容	「LINE@への登録者数」 <b>50名</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業参加学生のうち、「今後も継続的に介護に関する情報が欲しい」と希望した学生に対して公式LINE@への登録を推奨した。</li> <li>登録者のうち10名が施設見学や弊社主催のイベントへ参加している。</li> </ul>

## 2. 各事業詳細 (1)福祉教育事業 事業成果の測定

本事業の成果は以下の視点から測定した。

事業成果	測定時期	測定方法
①授業を通じて、中・高生の福祉・介護に対する興味・関心を向上させることができたか。	授業終了後	授業終了後の参加者へのアンケート
②授業を通じて、中・高生の福祉・介護に対する就職・進路の選択肢になることができたか。	授業終了後	授業終了後の参加者へのアンケート
③授業を通じて、福祉・介護に対する興味・関心が向上した中・高生の行動に変化を起こすことができたか。	2021年3月末時点	LINE@への登録者数の確認

## 2. 各事業詳細 (1)福祉教育事業 スケジュール

実施校別開催日及び参加者数は以下の通りである。

開催日	学校名	地域	参加者数	開催日	学校名	地域	参加者数
9月23日	北海道旭川東高等学校	北海道	41人	12月19日	純心女子高等学校	長崎	12人
10月4日	北海道岩見沢農業高等学校	北海道	9人	12月21日	長崎女子商業高等学校	長崎	12人
10月6日	市立札幌平岸高等学校	北海道	249人	1月13日	大阪府立東百舌鳥高等学校	大阪	20人
10月19日	北海道札幌国際情報高等学校	北海道	14人	1月16日	純心女子高等学校	長崎	130人
10月20日	市立札幌平岸高等学校	北海道	254人	1月25日	市立札幌大通高等学校	北海道	249人
10月27日	市立札幌平岸高等学校	北海道	254人	2月5日	市立札幌開成中等教育学校	北海道	109人
10月29日	市立札幌開成中等教育学校	北海道	143人	2月8日	一宮町立一宮中学校	千葉	122人
10月30日	市立札幌藻岩高等学校	北海道	15人	2月15日	北海道登別明日中等教育学校	北海道	70人
11月5日	長崎県立諫早高等学校・附属中学校	長崎	11人	2月17日	城星学園高等学校	大阪	51人
11月13日	大阪府立成美高等学校	大阪	24人	2月18日	札幌新陽高等学校	北海道	97人
11月18日	大阪府立東百舌鳥高等学校	大阪	24人	2月22日	植草学園大学附属高等学校	千葉	27人
11月19日	千葉県立八街高等学校	千葉	155人	2月28日	瓊浦高等学校	長崎	22人
11月24日	北海道旭川商業高等学校	北海道	223人	3月16日	海星学院高等学校	北海道	100人
12月2日	千葉県立浦安南高等学校	千葉	142人	3月17日	常翔学園高等学校	大阪	26人
12月9日	千葉県立大原高等学校	千葉	17人	3月15日	大田区立大森第四中学校	東京都	119人
12月14日	飛鳥未来高等学校	北海道	31人	3月18日	長崎女子商業高等学校	長崎	16人
12月15日	和洋国府台女子中学校高等学校	千葉	104人	※大田区立大森第四中学校は千葉エリアが担当			

## 2. 各事業詳細 (1)福祉教育事業 各地域の実施内容

地域	北海道	千葉	大阪	長崎
延べ開催回数	16回	8回	6回	6回
延べ参加者数	1858人	686人	145人	203人
アンケート回答人数	1297人	632人	138人	182人
実施テーマ	①地域共生社会とわたし ②当事者のリアル ③大学生の福祉ピアエデュケーション	①地域共生社会とわたし ②当事者のリアル ③大学生の福祉ピアエデュケーション	①大学生の福祉ピアエデュケーション ②当事者講話	①瑞宝太鼓（当事者からの話） ②高齢福祉×障がい福祉 ③若手職員のリアル
実施校	旭川東高校 旭川商業高校 旭川龍谷高校 海星学院高校 登別明日中等教育学校 駒沢大学附属苫小牧高校 札幌国際情報高校 飛鳥未来高校 平岸高校、平岸中学校 札幌新陽高校 藻岩高校 岩見沢農業高校 稚内定時制高校 私立大通高校 市立開成中等教育学校	八街高校 佐倉西高校 浦安南高校 大喜多高校 植草学園中学・高校	城星学園高等学校 東百舌鳥高等学校 成美高等学校	諫早高校 純心女子高校

## 2. 各事業詳細 (1)福祉教育事業 各地域の実施内容 ～北海道～

北海道では、学校及び実施学年に応じて①、②、③のいずれかのテーマで授業を実施した。

地域名	北海道
実施テーマ	①地域共生社会とわたし ②当事者のリアル ③大学生の福祉ピアエデュケーション
実施回数	16回
登壇講師	①大原裕介（社会福祉法人ゆうゆう理事長） ②発達障害当事者
協力してくれた学生	北海道医療大学 看護福祉学部臨床福祉学科

【実施風景】



## 2. 各事業詳細 (1)福祉教育事業 各地域の実施内容 ～千葉～

千葉では、学校及び実施学年に応じて①、②、③のいずれかのテーマで授業を実施した。

地域名	千葉
実施テーマ	①地域共生社会とわたし ②当事者のリアル ③大学生の福祉ピアエデュケーション
実施回数	8回
登壇講師	野澤和弘
協力してくれた学生	東京大学、上智大学、國學院大學、植草学園大学

### 【実施風景】





## 2. 各事業詳細 (1)福祉教育事業 各地域の実施内容 ～大阪～

大阪では、学校及び実施学年に応じて①、②のいずれかのテーマで授業を実施した。

地域名	大阪
実施テーマ	①大学生の福祉ピアエデュケーション ②当事者講話
実施回数	6回
登壇講師	NPO法人み・らいず2 宮武、津田（全体進行）
協力してくれた学生	NPO法人み・らいず2で活動する大学生

### 【実施風景】



## 2. 各事業詳細 (1)福祉教育事業 各地域の実施内容 ～長崎～

長崎では、学校及び実施学年に応じて①、②のいずれかのテーマで授業を実施した。

地域名	長崎
実施テーマ	①瑞宝太鼓（当事者からの話） ②高齢福祉×障がい福祉 ③若手職員のリアル
実施回数	6回
登壇講師	①瑞宝太鼓団員、南高愛隣会職員（岩永洋平、野中さくら） ②南高愛隣会職員（野林加奈、野中さくら）、社会福祉法人長崎厚生福祉団職員 3名 ③南高愛隣会職員（小田凜子、山崎誠也、野中さくら）
協力してくれた学生	長崎純心大学（今回学校側から大学生のプログラムの依頼なし）

### 【実施風景】

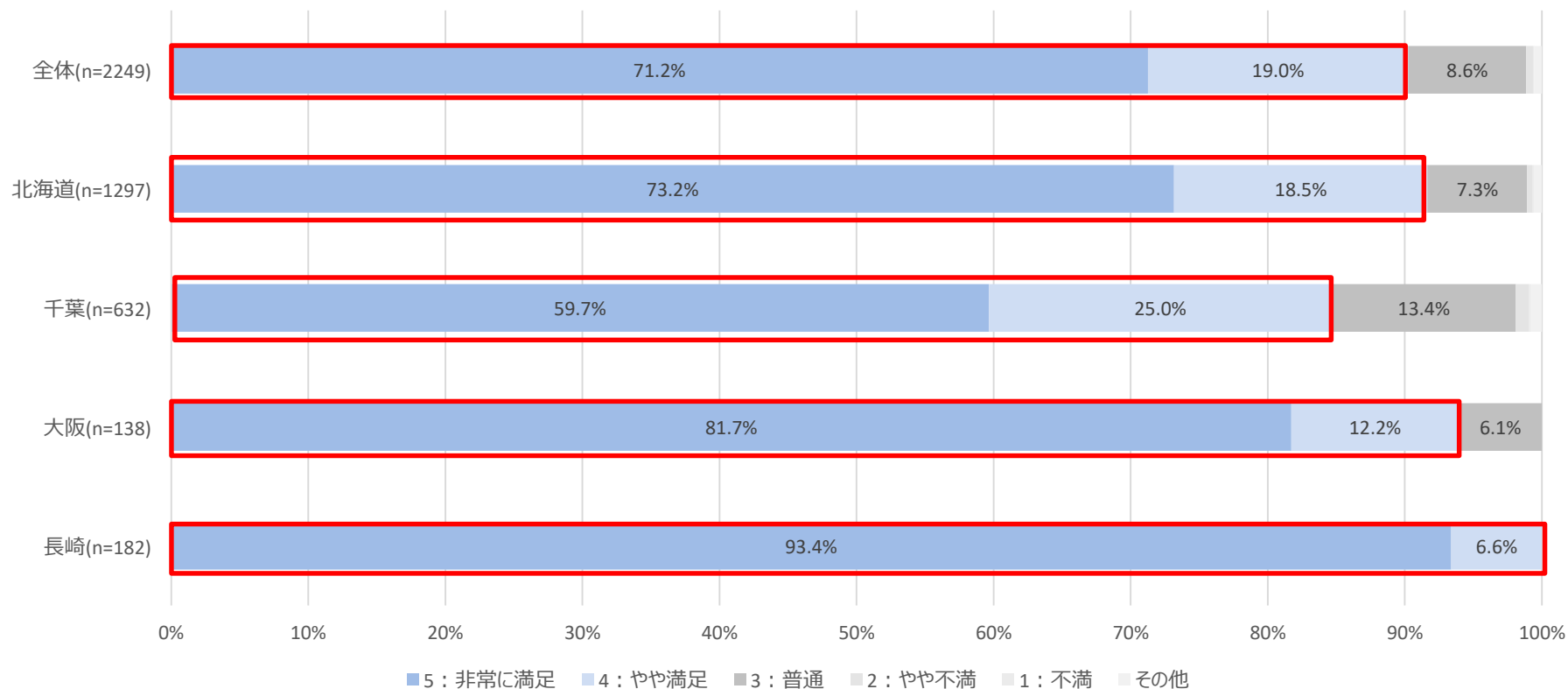


## 2. 各事業詳細 (1)福祉教育事業 満足度 | アンケートによる成果測定

### 北海道・千葉・大阪・長崎

参加学生の**90%以上**が授業内容に対して「非常に満足」「満足」と感じている。長崎についてはアンケート回答学生**182人全員が「満足」と回答している。**

授業の満足度 (1 : 低~5 : 高)

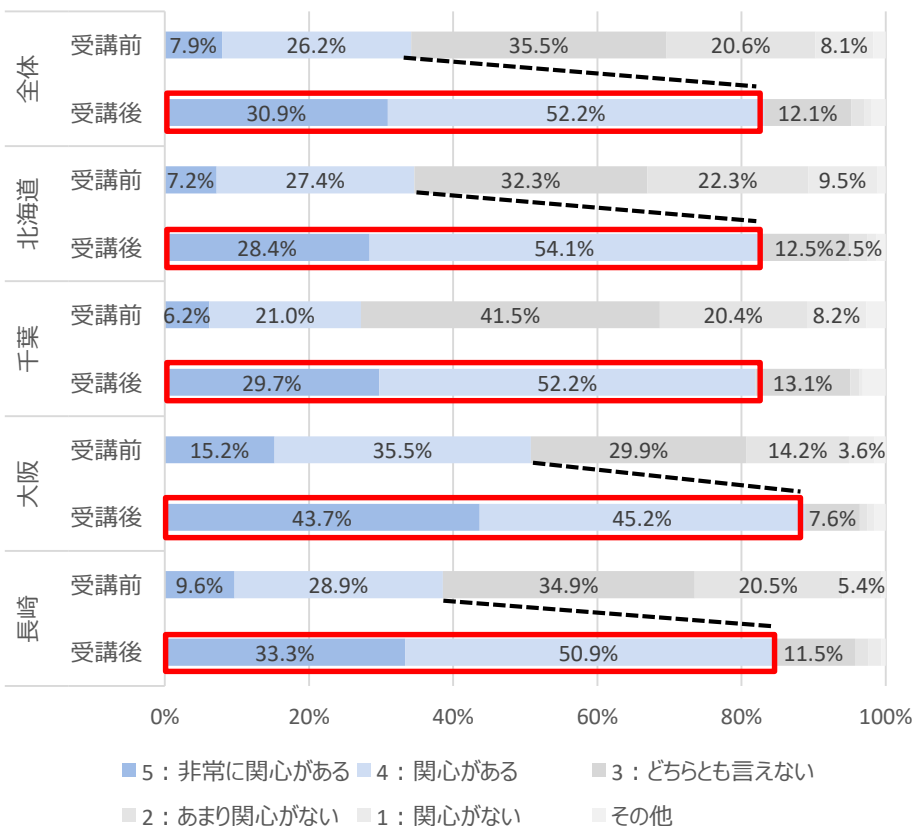


## 2. 各事業詳細 (1)福祉教育事業 意識変容 | アンケートによる成果測定

### 北海道・千葉・大阪・長崎

受講後では**83%(1,869人)**の学生が福祉に対して「非常に興味がある」「興味がある」と回答しており、受講前と比較すると**約49%**増加している。

福祉に対する関心度合い (1 : 低~5 : 高)



アンケートを通じて得たコメント (一部抜粋)

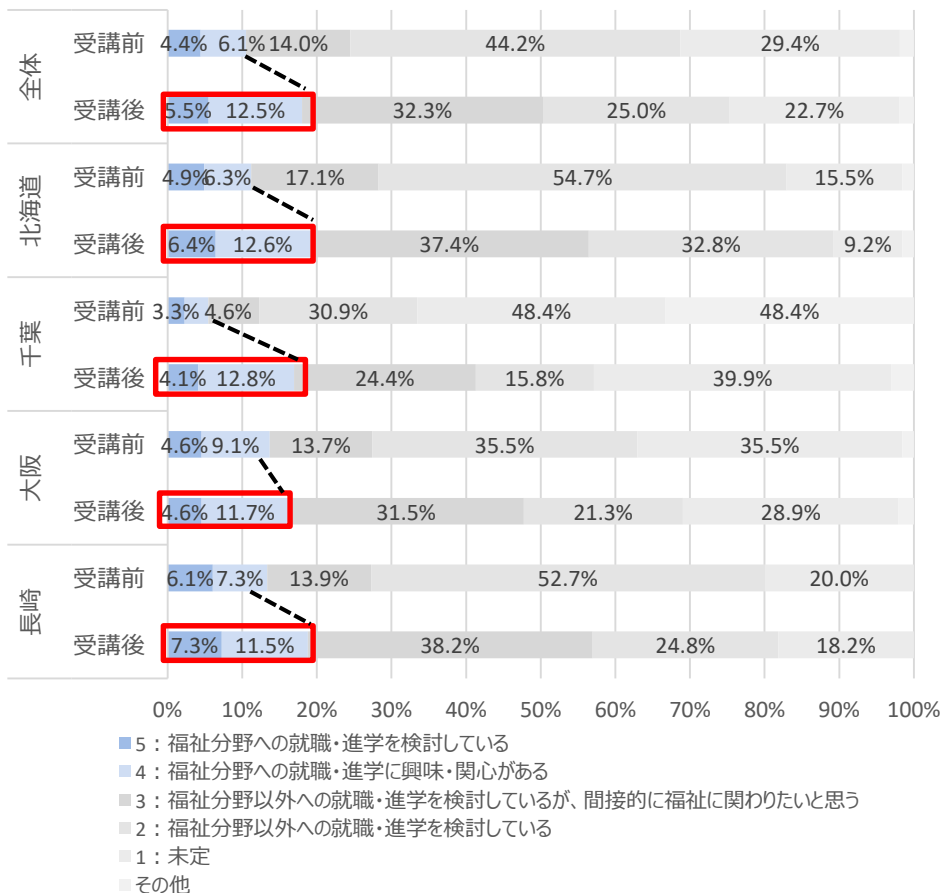
- 高齢者や障がい者などに対する考えがとても変わりました。テレビなどで障がい者は得意な分野があるみたいな話は見たことがあったのですが、その分野もすごく沢山の種類があると分かり驚きました。そして私たちは全員の障がい者に得意分野を見つけなければならぬということが分かり、これがこれからの**社会で求められる課題**なのだと気づきました。
- 受講前は福祉を他人事として考えていましたが、受講後は**より身近に福祉を感じる**ことができました。
- 今まで福祉というものに全くと言ってよいほど**興味が無かった**が、今回の講演を聴いて少し福祉に**興味が**でた。
- 講演を聴くうちにどんどん「次の話が聞きたい」と感じました。今日の講演を聴いた中で**福祉についての考え方が180度変わりました**。

## 2. 各事業詳細 (1)福祉教育事業 意識変容 | アンケートによる成果測定

### 北海道・千葉・大阪・長崎

受講後では**18% (約400人)**の学生が「福祉分野への就職・進学」を検討・関心があると回答しており、受講前と比較すると**約8% (約180人)**増加している。

福祉への就職・進学意欲 (1: 低~5: 高)



アンケートを通じて得たコメント (一部抜粋)

- 福祉・介護などは将来やらないだろうと考えていたのですが、**イメージががらりと変わりました。**
- 福祉関係の仕事に就けなかったとしても、**障がい者雇用などを促進したい**と思います。
- このようなお話が聴けると、**自分の将来について深く考えるきっかけ**になります。
- 将来の夢に関わる可能性が大きくて、始まる前から楽しみにしていたのですが、想像以上に福祉や今の日本が抱える社会問題に根付いた行動をお話ししてくださって、**将来のことに関してとても参考になりました。**



## 2. 各事業詳細 (1)福祉教育事業 行動変容 | LINE@登録による成果測定

### 北海道・千葉・大阪・長崎

北海道の授業を参加した学生のうち、「**今後も継続的に介護に関する情報が欲しい**」と希望した学生に対して公式LINE@への登録を推奨した。その結果、**50人の学生**がLINE@への登録を行った。

LINE@では、FACE to FUKUSHIが開催しているオンライン講座などの情報を定期定期に発信し、福祉・介護に興味を持った学生の行動変容を促進している。

#### 情報発信文章例



#### 高校生の福祉ゼミ

おはようございます 🌞  
社会福祉法人ゆうゆうの荻原です。

以前もご紹介しておりました北海道医療大学の公開オンライン講座「福祉と当事者のリアル」が今週末も行われます。  
ご興味ある方はYoutube URLをお送りしますので、本LINEアカウントはお返事お待ちしております。  
なお、リアルタイムでの視聴のほかに、アーカイブ配信として、講義実施後、一週間はご視聴いただくことが可能です。

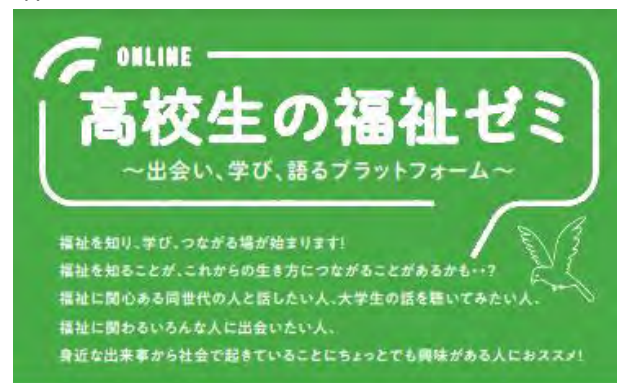
日時:10/17(土)13:00-15:00

テーマ:若者たちよ、荒野を目指せ。～Students, be ambitious!!～

ゲスト:野澤和弘さん

元毎日新聞論説委員であり、現在は千葉県にある植草学園大学副学長・一般社団法人スローコミュニケーション代表  
内容:東京大学で行われている「障害者のリアルに迫る」東大ゼミの外部顧問を務める野澤さんが福祉の過去と今、そして未来を語ります。

#### 配布DM



LINE公式アカウント登録受付中!

高校生の福祉ゼミ

で検索して登録!

登録者にはゼミのご案内が届きます!



福祉をもっと学ぶことができる



高校生や大学生と話ができる

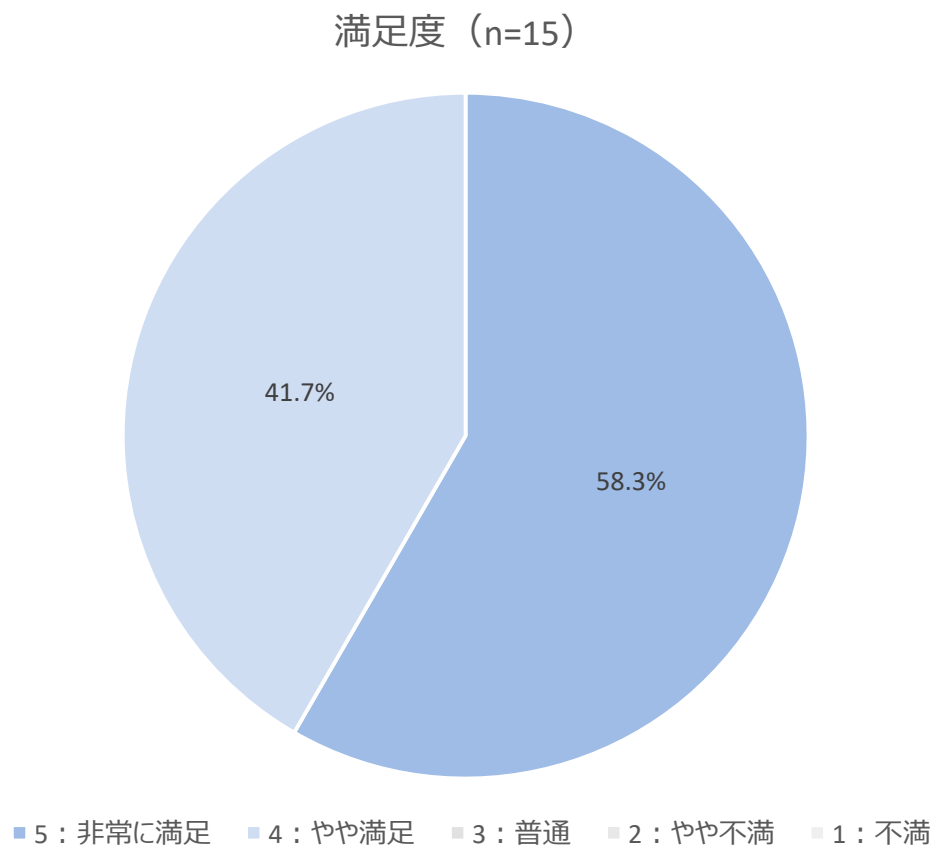


オンラインで自由に参加できる

## 2. 各事業詳細 (1)福祉教育事業 アンケートによる成果測定【運営を実施した大学生】

### 北海道・千葉・大阪・長崎

福祉教育事業の運営及び登壇いただいた学生を対象としたアンケートでは、**全員が「非常に満足」「満足」と回答している。**



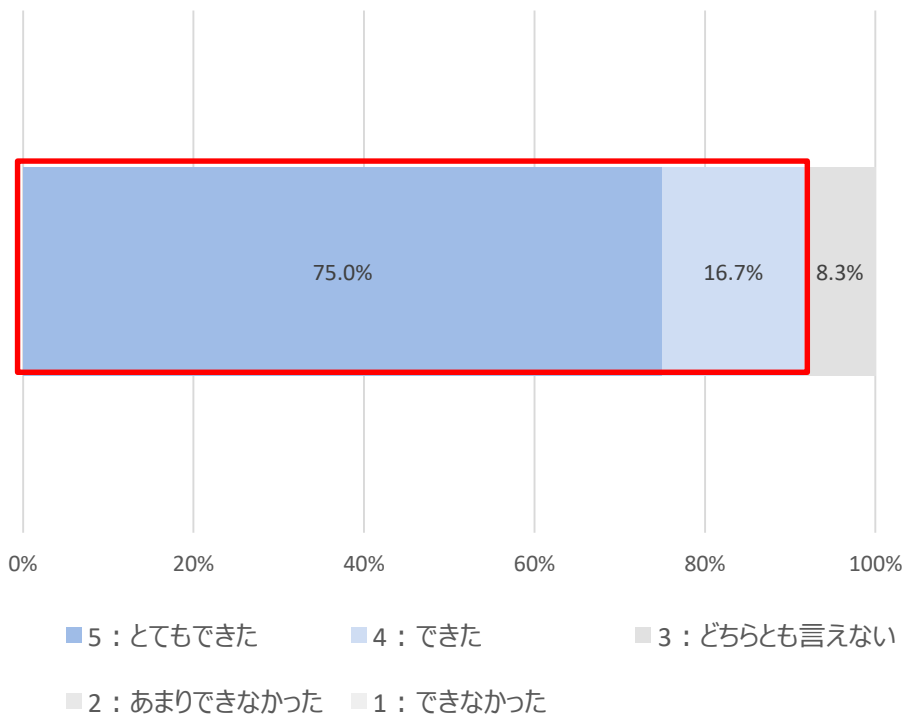
## 2. 各事業詳細 (1)福祉教育事業

### アンケートによる成果測定【運営を実施した大学生】

#### 北海道・千葉・大阪・長崎

福祉教育事業の運営及び登壇いただいた学生のうち**約92%の学生が「福祉の魅力を再確認できた」と回答**しており、中学生・高校生に教えることによって**福祉の魅力や良さを見つめ直す機会**となった。

福祉の魅力を再確認できたか



アンケートを通じて得たコメント（一部抜粋）

- 福祉の専門でない人たちに福祉を教えることで、福祉について**違う視点から学び直すこと**につながったため。
- 先輩のプレゼンを聞いて、**自分自身を見つめ直すきっかけ**になったため。
- 自分の活動を振り返ることができ、福祉の活動を通して福祉に対する思いが強くなっていると感じ、福祉に関われば関わるほど感じる**福祉の良さ、魅力に気づくことができた**ため。

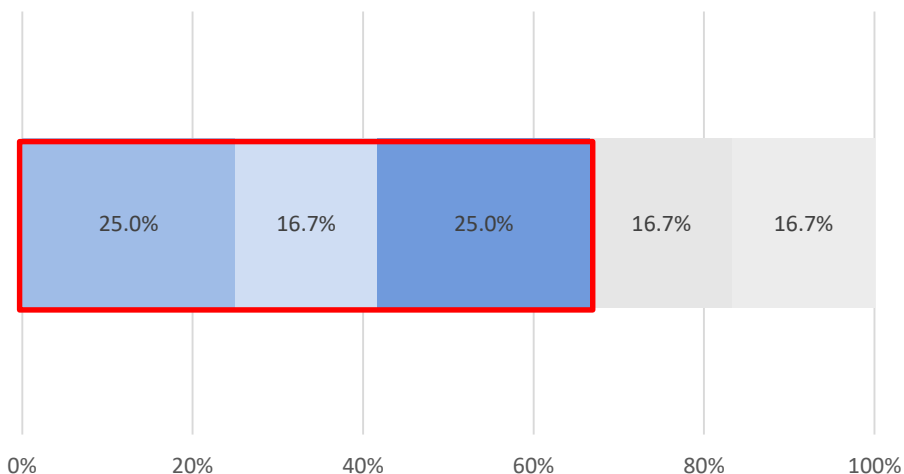


## 2. 各事業詳細 (1)福祉教育事業 アンケートによる成果測定【運営を実施した大学生】

### 北海道・千葉・大阪・長崎

福祉教育事業の運営及び登壇いただいた学生のうち約70%の学生が「福祉分野への就職を以前より強く検討している」「福祉分野への就職を検討している」と回答しており、福祉業界への就職意欲が向上したことが伺える。

福祉・介護への就職意欲



- 7 : 福祉分野への就職を以前より強く検討している
- 6 : 福祉分野への就職を検討している
- 5 : 福祉分野への就職を選択肢の1つにしていて、以前より可能性が高まった
- 4 : 福祉分野への就職を選択肢の1つにしている
- 3 : 福祉分野以外への就職を検討しているが、間接的に福祉に関わりたいと思う
- 2 : 福祉分野以外への就職を検討している
- 1 : 未定

アンケートを通じて得たコメント（一部抜粋）

- 自分の中で深く考えたり、先輩のお話を聞く中で、**福祉分野の魅力**をさらに理解することができました。
- 福祉の面白さはまだまだ自分の見えていない部分も多くありました。**もっと知りたい、実践したい**と思いました。
- **なぜ自分が福祉の仕事をしたのか**ということ子どもたちに伝えることで**もっと気持ちが強まりました**。
- 福祉の活動を振り返ったことで、自身がやりがいをもって、楽しいと思って活動していることを再確認でき、**自分にとっても福祉というものが大きな存在で、欠かせないものだ**と考えるようになりました。

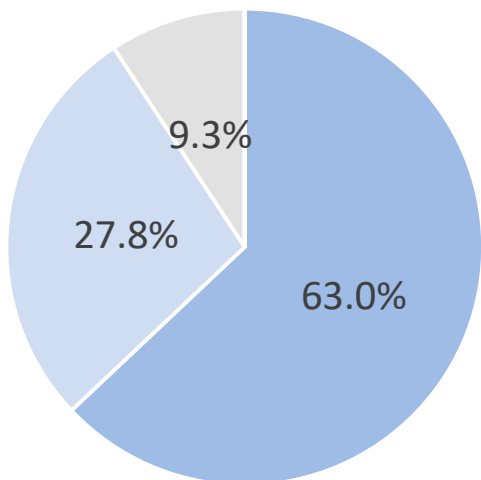
## 2. 各事業詳細 (1)福祉教育事業 満足度 | アンケートによる成果測定【教師】

### 北海道・千葉・大阪・長崎

教師へのアンケートでは、**90%以上**が福祉教育に対して「とても有意義だと思う」「有意義だと思う」と回答している。  
また、**90%以上**が今後の福祉教育実施に対して「是非、実施したい」「実施したい」と回答している。

福祉教育は、生徒にとって有意義だと思いますか？

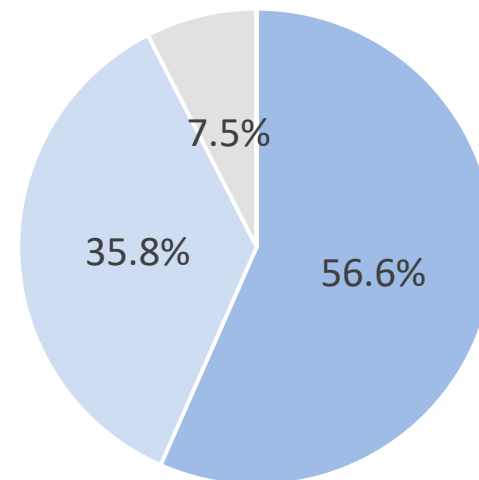
(n=49)



- 5 : とても有意義だと思う
- 4 : 有意義だと思う
- 3 : どちらとも言えない
- 2 : あまり有意義ではない
- 1 : 有意義ではない

今後もこのような機会があれば、授業を実施したいと感じますか？

(n=49)



- 5 : 是非、実施したい
- 4 : 実施したい
- 3 : どちらとも言えない
- 2 : あまり実施したくない
- 1 : 実施したくない

## 2. 各事業詳細 (1)福祉教育事業 意識変容・行動変容 | インタビューによる成果測定

### 福祉教育事業

受講前は、福祉・介護は介護者のみ負担がかかるものと**ネガティブな印象**を持っていた。授業受講後は、福祉・介護は**双方の理解や被介護者の思いを理解する**重要性を学び、**ポジティブな印象**を持つようになった。

#### 中学生 Aさん

福祉との接点：祖父が介護を受けているため、少しの接点はある。

#### <授業を通じて感じたこと、学んだこと>

- 授業受講前は、介護を受けている祖父と父の間でトラブル等もあったため、福祉・介護に対してネガティブな印象を持っていた。福祉・介護は支える側が一方的に負担が大きいと考えていた。
- 授業受講後は、180度印象が変わり、福祉・介護に対してポジティブな印象を持つようになった。福祉・介護はどちらか一方が頑張るのではなく、両方が頑張る必要があることを知った。
- 授業で取り上げられていた、認知症のおばあちゃんと自分の祖父の行動が重なった。祖父がやりたいことに対して家族は心配する思いが強かったが、一歩踏み込んでサポートできれば良かったと振り返った。相手を優先しながらサポートしていきたいと感じた。

#### <授業受講以降で行動したこと>

- 祖父が施設で「御飯がおいしくない」といって食べなかったり、時間を守らないといった行動を取っていた。授業受講前は、「施設に入れてもらっている立場なのにその態度はどうなんだろう」と思っていた。授業受講後は、「どのように工夫したら御飯を食べてもらえるだろうか」や「どうすればよくなるだろう」と考える様になった。
- 私自身、祖父においしい御飯を食べてもらえるように料理を始めた。

## 2. 各事業詳細 (1)福祉教育事業 事業総括と今後の課題

### 総括

#### ① 介護・福祉のリアルを伝え、生徒の日常とリンクさせることで、介護・福祉に対する興味・関心を向上することができた

- ✓ 各エリアでの出張授業の実施により、受講学生が福祉・介護というものを日常的に意識することが無い状態から、学生の身近な光景の中に福祉・介護が入り込んでいるという認識を持っていただくことができた。これにより、福祉・介護に対する興味・関心を高めることができた。
- ✓ 学生の見ている光景が同じであっても、福祉的観点を持つことで可能となり、将来の職業選択の一つとすることができた。

#### ② 受講学生だけでなく、運営学生、教師に対しても福祉に対する興味・関心を高めることができた

- ✓ 出張授業を受けた学生に対してポジティブな効果を与えただけでなく、運営学生や、教師に対しても福祉・介護に対する興味・関心を高めることができたことが大きな効果である。特に学生の進路選択に影響を与える教師側の理解が深まったことは、福祉分野への進路選択の可能性を広げたといえる。

#### ③ 各地域の特徴を活かしながら、福祉・介護の魅力を伝えることができた

- ✓ 今年度は全国4拠点でそれぞれの実施主体の特徴を活かした魅力発信を行うことができた。
- ✓ 実施主体であるFACE to FUKUSHI社以外の団体であっても、連携会議等の情報共有を密にすることで提供可能なプログラムであることが証明された。

### 課題

#### ① 単年度で完結せず、介護・福祉に興味を持った学生を就職までつなげる仕組みが必要である

- ✓ 本イベントを通じて、福祉・介護への興味・関心が高まった学生に対して、介護業界の業務内容ややりがいを知ってもらうために施設見学や介護体験ができる環境が必要といえる。
- ✓ 対面でのコンテンツ提供に加え、オンラインでのコンテンツも整備することにより地域に関係なく、有益なサービスを提供できる環境が必要である。
- ✓ 次年度以降は、LINE@などを今年度以上に活用することで、継続的に情報を提供できる仕組みの構築を目指す。

#### ② 福祉教育事業としての出張講座を、全国展開していく必要がある

- ✓ 各地域の社会福祉法人及び福祉・介護団体と協力することにより、本イベントを全国に広めていくことが必要である。

1. 介護のしごとと魅力発信等事業（若年層向け）

2. **各事業詳細**

(1)福祉教育事業

(2)**介護×新卒事業**

(3)非福祉系大学生事業

3. 全体総括

## 2. 各事業詳細 (2)新卒×介護 実施概要

### ●事業の目的

- 様々な角度から介護に携わっているゲストの講義やマッチングイベントを通じて、福祉学生の福祉・介護分野への就職意欲をより一層高める。
- 社会福祉法人に対してはオンラインでの採用に必要なスキルの習得を目指した研修を実施し、人材確保を目指す。

※福祉学生とは、福祉関連のメルマガ等に事前に登録している、或いは、学校で福祉を学んでいる学生と定義する。

### ●実施内容

- オープニングセミナー/介護業界研究ゼミ<オンラインイベント 全5回>
- 法人向け採用力向上研究<オンラインイベント 全5回>
- FUKUSHI meetsなどのF2F主催イベント<オンラインイベント 全30回> ※27イベントは補助事業対象外

### ●効果測定の方法

対象：オープニングセミナー/介護業界研究ゼミ参加者

内容：参加者の意識変容及び行動変容について

手法：WEBのアンケート調査

参加者へのインタビュー調査

対象：法人向け採用力向上研究参加者

内容：参加者の意識変容及び行動変容について

手法：WEBのアンケート調査

参加者へのインタビュー調査

対象：FUKUSHI meets参加者

内容：参加者の意識変容及び行動変容について

手法：WEBのアンケート調査

### 【広報物】



## 2. 各事業詳細 (2)新卒×介護 実施概要 (主要成果)

介護×新卒事業にて、以下の成果が得られた。

No	KPI	成果	詳細内容
①	参加者の意識変容	<p>「福祉に関する関心度合い」</p> <p><b>授業前の関心度 84.0%</b></p> <p>↓</p> <p><b>研修後の関心度 97.0%</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各授業後のアンケートにおいて、授業参加前後の「福祉に対する関心」の度合いに関する質問を行った。</li> <li>受講後は「非常に関心・魅力を持っている」と回答した学生が受講前と比較すると約30%増加した。</li> </ul>
②	参加者の意識変容	<p>「福祉業界への就職・進学」</p> <p><b>イベント前の意欲度 67.0%</b></p> <p>↓</p> <p><b>イベント後の意欲度 75.0%</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各イベント後のアンケートにおいて、イベント参加前後の「福祉業界への就職意欲」に関する質問を行った。</li> <li>質問に対して「介護業界への就職を希望する」「介護業界への就職に興味があるが、迷っている」と回答した割合がイベント参加前は67%であったのに対して、イベント参加後は75%となった。</li> </ul>
③	就職機会への移行人数	<p>「FUKUSHI meets ! への移行人数」</p> <p><b>18名</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議の仕事研究セミナーに参加した就活年次の学生36人のうち18名が自社主催のFUKUSHI meets ! への申込に繋がっており、就職活動に向けた行動変容を伺えることができた。</li> </ul>

## 2. 各事業詳細 (2)新卒×介護 事業成果の測定

本事業の成果は以下の視点から測定した。

事業成果	測定時期	測定方法
①オープニングセミナー/介護業界研究ゼミを通じて、福祉学生の福祉・介護分野に対する就職意欲を向上させることができたか。	イベント終了後	イベント終了後の参加者へのアンケート
	イベント終了1～2か月後	参加者への事後インタビュー
②法人向け採用力向上研修を通じて、社会福祉法人のオンライン採用スキルを向上させて、人材を確保することができたか。	イベント終了後	イベント終了後の参加者へのアンケート
	イベント終了後	参加者への事後インタビュー
③マッチングイベントを通じて、参加法人への就職・インターンシップを検討させることができたか。	イベント終了後	イベント終了後の参加者へのアンケート



## 2. 各事業詳細 (2)新卒×介護 スケジュール

実施テーマ	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①オープニングセミナー 介護業界研究ゼミ				オープニングセミナー/介護業界研究ゼミ OP (11/15)	第1回 (11/29)	第2回 (12/13)	第3回 (1/17)	第4回 (2/7)
②採用力向上研修				第1回 (11/12)	第2回 (12/6)	第3回 (1/21)	第4回 (2/4)	第5回 (3/23)

## 2. 各事業詳細 (2)新卒×介護 各イベントの実施内容

実施種類	オープニングセミナー/ 介護業界研究ゼミ	採用力向上研修
延べ開催回数	5回	5回
延べ参加者数	106名	53名

## 2. 各事業詳細 (2)新卒×介護 オープニングセミナー/介護業界研究ゼミ

2時間×全5回の業界研究ゼミをZOOMを使用して実施した。当該プログラムでは、さまざまなアプローチで介護に携わる方々をゲストに迎え、介護のあいまいなイメージをひとつずつアップデートした。

NO	日時	ゲスト	内容
OP	2020年11月15日（日）	NPO法人しゃらく 代表理事 小倉譲	[ 旅 × 介護 ] ～高齢者の旅をしたい想いに介護でこたえる～
1	2020年11月19日（日）	株式会社Blanket 代表取締役 秋本可愛	20代が面白くする介護職の未来 ～介護職の可能性を広げる～
2	2020年12月13日（日）	IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表者 川北秀人	2040年の社会って、介護ってどうなっているのだろう？
3	2021年1月17日（日）	NPO法人 おはな 森田浩史 社会福祉法人くらしのハーモニー 上埜佳代子	介護のリアル in 京都 医療から介護へ その人らしさを支える介護の魅力
4	2021年2月7日（日）	社会福祉法人の若手と現場職員	若手&現場職員の介護のリアル in 京都

## 2. 各事業詳細 (2)新卒×介護 採用力向上研修

3時間×全5回の採用力研修をZOOMを使用して実施した。当該プログラムでは、オンライン採用において重要になってくる以下の3点を重点的に研修を実施した。

- ①他法人と差別化し、自法人にあった人材を採用するためのPRポイントの言語化する
- ②プロやFACE to FUKUSHI事務局及び参画法人同士で、PRポイントをブラッシュアップする
- ③オンライン＆オフラインで若手職員が現場の魅力を伝えるプレゼンテーションスキルを身に着ける

参加法人：社会福祉法人くらしのハーモニー、社会福祉法人リガーレ暮らしの架け橋

社会福祉法人京都福祉サービス協会、社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会

No	プログラム	開催日
1	<p>【学生のリアルを知る&amp;自法人らしいPRポイントを考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の企業を選ぶ視点を知る</li> <li>・自法人にあった人材を採用するためのPRポイントを考える</li> </ul>	2020年11月12日（木） 14時～17時
2	<p>【PRポイントのブラッシュアップ&amp;ネクストステップ戦略策定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロライターから学ぶ、PRポイントの魅せ方・尖らせ方</li> <li>・参画法人+事務局でPRポイントを相互FB&amp;ブラッシュアップ</li> <li>・オンライン説明会等の参加したくなるネクストステップ企画づくり</li> </ul>	2020年12月17日（木） 14時～17時
3	<p>【魅力を伝えるプレゼンテーションのポイントを学ぶ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションのポイントを抑える</li> <li>・若手職員主体でプレゼンテーションを考えるワークショップ</li> </ul>	2021年1月21日（木） 14時～17時
4	<p>【プレゼンテーションの実践&amp;ブラッシュアップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの実践&amp;振り返り</li> </ul>	2021年2月4日（木） 14時～17時
5	<p>【実践の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職フェア等で実施した内容の振り返り</li> <li>・研修の総括&amp;今後のアクションを考える</li> </ul>	2021年3月23日（火） 14時～17時

# 2. 各事業詳細 (2)新卒×介護 採用力向上研修

採用力向上研修の内容を多くの法人様に共有し、福祉・介護業界全体で人材不足解消を目指していくため、研修で実施した内容のエッセンスを纏めた冊子を作成した。

特に、若者にしっかりと介護の魅力を訴求するための「3つのオキテ」を構成いただける内容となっている。  
(配布先：自社の採用イベントに参加法人150団体)



若者向け

介護・福祉業界への  
「採用力」をアップする

# 3つのオキテ

Three rules to increase recruitment

今すぐ試せる！  
実践シート付き！

- 魅力が伝わらない理由
- 学生のニーズを知る
- 「法人の魅力」を考える
- 「伝え方」を考える
- 魅力の言い換え
- 採用はフローで考える

これを読めば、  
漠然とした魅力発信から脱却して、  
若者に響く魅力の  
伝え方がわかる！

## 若者に魅力が伝わらない理由

今まで多くの採用担当者から「いつも丁寧に説明しているのに、一向に学生が盛り向いてくれない」という悩みを聞いてきました。実際に現場を見て、魅力の詰まった働きやすい環境です。では、なぜ学生にはその良さが伝わらないのでしょうか？うまく行かない原因は様々ありますが、やりがちな代表的な原因例をあげてみましょう。

- 原因1** 学生のニーズを知らない  
学生さんが、どうやって就活をしているのか、何を重視しているのか、どんな情報を求めているのか知っていますか？そもそも全学生をターゲットにしていませんか。どういった学生に来てほしいのか、その学生が求めているのは何なのか、相手のことを知らなければ、相手の望んでいることも分かりません。
- 原因2** 漠然としたPRをしている  
業界と、あれもこれも法人のことを伝えてはいますが、やりがいの、福利厚生も、職場の雰囲気もと詳細が伝わりません。一つ一つの情報が伝わりやすくなり、後の法人の伝えていく内容と併行になって聞かれます。大切な情報は、どんな人に、何を伝えたいのかをハッキリさせることです。
- 原因3** 伝え方を間違っている  
相手に分かりやすい方法でメッセージを発信していますか？こちらの伝えたいことと受け手に伝えても、なかなか相手に受け取ってくれません。相手に寄り添い、伝えたいことや情報を工夫すること、重要です。PRは伝えたい相手に伝わりやすいと意味があります。

## 3つのオキテ

ナビサイトに掲載するだけや、オシャレなホームページや採用パンフレットをつくるだけで、若者が採用できる時代ではなくなりました。若者に介護・福祉の魅力を伝え、採用力をアップするために、とても大切な3つのオキテがあります。「誰に」「何を」「どうやって」、魅力を伝えるのかをきちんと整理し、考え、発信すること。これをしっかり行っている法人は、規模の大小や立地やエリアに限らず採用がうまくいっています。シンプルなことですが、3つのオキテを押さえて採用を行うことで、結果が大きく変わってきます。



## 参加者の声

採用力向上研修に参加した人たちの声を一部紹介します。

- Q** 参加した感想を教えてください。  
法人内にある複数拠点のメンバーが同じ研修を受けることで、自法人の働き甲斐について共有の認識が持てたことごとと良かったと思っています。
- Q** 特に採用活動で役立つと思った点は？  
特徴をメリットではなくデメリットに注目して伝えること。  
知所をリレーミーティングを通して伝える機会。採用イベントに参加する学生がどんなことが知りたくて、どんな不安があるかを考えながら話をすることはとても参考になった。  
PRの対策によって伝え方を変えるのは大切だと感じた。学生、社会人、経験者それぞれに合わせた伝え方を考えることで魅力として伝わりやすさを知ることができた。
- Q** 研修に参加した前と後で、変わった点は？  
学生や参加者自身に対する「ベネフィット」という言葉を知りました。今までには福利厚生の良い所を伝えることを重視して考えていましたが、この言葉や意味を知り、参加される方が何を聞きたいのか、どう変化してほしいのかを考えることが出来るようになったと感じています。
- 法人、福祉の魅力を対外的にPRすることを今まで考える機会がなかったのですが、伝え方を学ぶいい機会になった。  
学生が就職先を決める過程でどのようなことを考えているのかデータで知ることができ、アピールする際に押さえるべきポイントを学ぶことができました。  
他の施設の設備がどのような発信方法を使っているのか、またどのように伝えようかと考えることが出来ました。  
自法人の求めるペルソナ像を今一度見直したり、ポイントを見直して見たいという意見をもらえたのがとても参考になりました。

< YouTube >  
FACE to FUKUSHI の公式チャンネル



< お問い合わせ >

アナタとFACE to FUKUSHI

一般社団法人 FACE to FUKUSHI

〒330-0001 水戸市北区梅田1-3-3  
大阪駅前第1ビル4階106号室 レーベル株式会社内

TEL 06-4799-0108  
営業時間 10:00-18:00 (土日祝日を除く)  
WEBサイト <https://f2f.jp/>



03

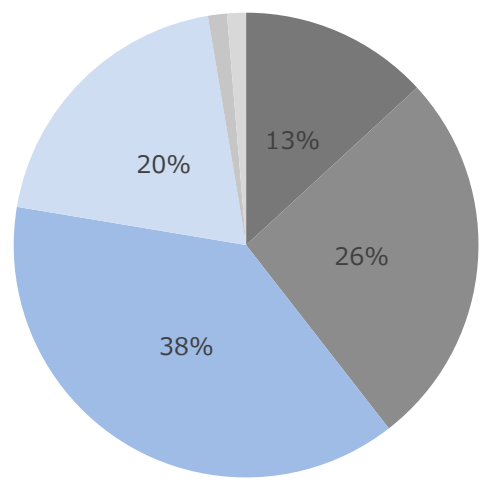
## 2. 各事業詳細 (2)新卒×介護 満足度 | アンケートによる成果測定

### オープニングセミナー/介護業界研究ゼミ

オープニングセミナー/介護業界研究ゼミに参加学生のうち、**約60%が1年以内に就職の可能性が高い**、3年生、4年生となっている。

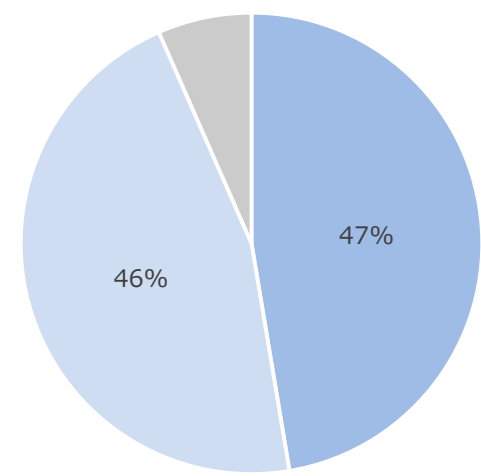
また、参加者の**90%以上**が授業内容に対して「満足」と回答している。

参加者の学年(n=77)



■ 大学1年生 ■ 大学2年生 ■ 大学3年生 ■ 大学4年生 ■ 大学院1年 ■ 大学院生2年

満足度



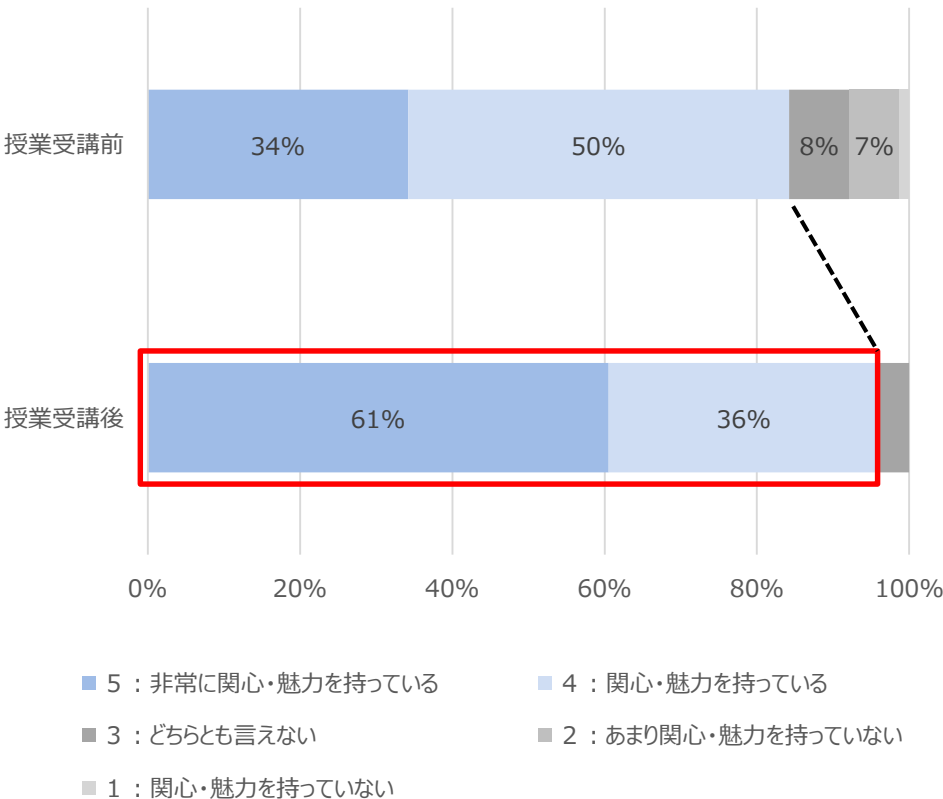
■ 5 : 非常に満足 ■ 4 : 満足 ■ 3 : 普通 ■ 2 : やや不満 ■ 1 : 不満

## 2. 各事業詳細 (2)新卒×介護 意識変容|アンケートによる成果測定

### オープニングセミナー/介護業界研究ゼミ

受講前は福祉に対して「非常に関心・魅力を持っている」「関心・魅力を持っている」と回答した学生は84%であり、**受講後では97%となり、13%増加している。**また、受講後は**「非常に関心・魅力を持っている」と回答した学生が受講前と比較すると約30%増加した。**

福祉に対する関心度合い（1：低～5：高）



アンケートを通じて得たコメント（一部抜粋）

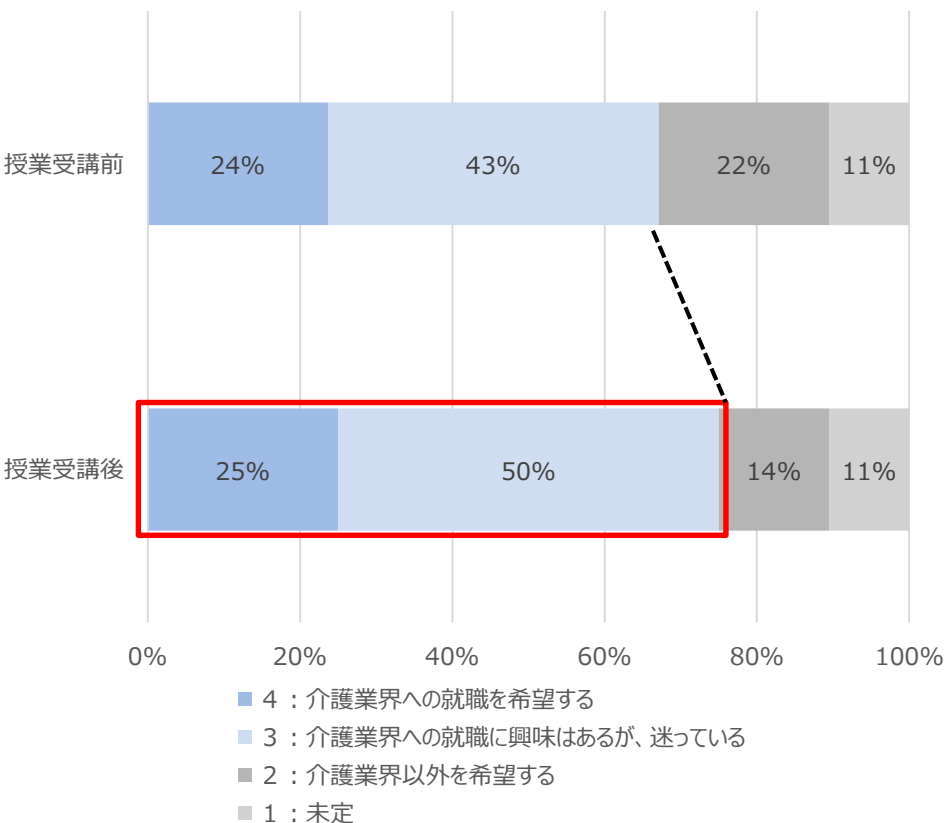
- 受講前は、介護は「大変」「つらい」といった印象を持っていた。受講後は、大変さはイメージ通りであるが、それを**上回る位のやりがい、感動がある事を知った。**
- 小規模多機能はまた何かの形で**見学してみたい**です。
- 実際の介護施設の様子やお話を聞いて、**介護についてのイメージが以前よりも明確になりました。**
- 介護職員は大変なことが多いと考えていたが、プライベートもきちんと楽しめるし、働く中で利用者さんとの**楽しさや喜びがあるんだ**という**良いイメージが増えた。**
- ご本人がもっておられる力をどれだけ活かされるかを大事にしておられ、**ただ介護をするだけではないということが分かりました。**

## 2. 各事業詳細 (2)新卒×介護 意識変容|アンケートによる成果測定

### オープニングセミナー/介護業界研究ゼミ

受講前後で比較すると「**介護業界への就職を希望する**」「**介護業界への就職に興味がある**」と回答した学生は**8%増加した**。また、「介護業界への就職を希望する」学生は1%、「介護業界への就職に興味がある」学生は7%増加した。

福祉への就職意欲 (1:低~5:高)



アンケートを通じて得たコメント (一部抜粋)

- 介護はその人の生活を支えるために必要なことであるが、**お世話をするということに限らない**。様々な視点でその人を見て役割を持ってもらったり**人生の伴走者となる**ことが必要だと印象を持った。
- 仲間とともに高齢者の人生を豊かにし、さらには地域の在り方までも変えてしまう、**素晴らしい職**。
- 大変な仕事ではあるが、私たち20代の若いやる気のあるワーカーが集まれば福祉が大変であるというイメージが変わることや、とても**可能性のあるお仕事であると前向きなもの**にかわった。
- 自分が**介護業界を変える一員になりたい**。
- 制度に縛られない様々な取り組みに衝撃を受けました。支援をする方の本当の気持ちやその人を思った支援の大切さを感じたと共に**私もそのような支援者になりたい**と思いました。



## 2. 各事業詳細 (2)新卒×介護

# 意識変容・行動変容 | インタビューによる成果測定

### オープニングセミナー/介護業界研究ゼミ

受講前は介護に対して「不自由な人と関わり、同情してしまう」と**抵抗感**を持っていたBさんであったが、受講後は「地域を共にデザインする」という考えを知ることにより、介護に対して**肯定的な考えを持つようになった**。

また、**介護を知るためにインターンシップ等への参加**も検討している。

### 立命館大学 産業社会学部 人間福祉専攻 3年生 Bさん

家族構成：父親、母親との3人家族（地元は栃木で現在は1人暮らし）

福祉との接点：母親が児童養護施設で勤務していたため、**福祉は身近に感じていた**。

一方、幼少期に祖父が寝たきりの状態で介護を受けていたことから、**介護に対してはあまり良いイメージを持っていなかった**。

就職希望：児童養護施設での勤務を希望

### <イベントを通じて感じたこと、学んだこと>

- これまで介護は不自由な人と関わるため、同情の気持ちを持ってしまっていたが、**「支援の対象ではなく、地域を共にデザインする一員」**という考えを知ることにより、**介護に対する抵抗がなくなった**。
- 介護業界は大変な職業ではなく、**様々な可能性がある職業**だと知った。

### <イベント受講以降で行動したこと>

- 実家に帰省した際に、母親に福祉イベントに参加したことを伝え、**福祉・介護の制度や仕事のやりがい、魅力について話した**。
- 福祉・介護の現場を訪問してみたいが、コロナの影響で訪問することが難しいため、**「フクシゴト」への登録やオンラインセミナーへ積極的に参加して、福祉・介護の情報収集**を行っている。
- 介護施設の**インターンシップ等があれば参加してみたい**と考えている。

## 2. 各事業詳細 (2)新卒×介護 アンケートによる成果測定

### 採用向上力研修

参加した全法人で、参加前後で考え方や取り組みが変化したとか回答いただいた。また、「法人として学生に伝えたいメッセージは何か」「学生が知りたいことはどのようなことか」など他法人との差別化を図るなどの行動に移す機会となった。

アンケートを通じて得たコメント（一部抜粋）

- 法人内にある複数拠点のメンバーが同じ研修を受けることで、**自法人の働き甲斐について共有の認識が持てた**ことがとても良かったと思っています。
- プレゼンの練習が特に印象的です。準備は大変でしたが勉強になりました。**他事業所と比較してどこが自法人の強みか**、など改めて考えることができました。
- 法人、福祉の魅力を対外的にPRすることを今まで考える機会がなかったので考え方、**伝え方を学ぶいい機会**になった。
- 自法人のリクルーターとして活動する上で、**魅力の伝え方を学びたい・他法人の工夫を知りたい**と思い参加させて頂きました。自法人の求めるペルソナ像を今一度見直したり、パワーポイントを皆さんに見ていただいて良いところ・悪いところを言っただけたりしたことで、**法人独自で行っているセミナーに活かす**ことができそうです。オンラインでの研修の運営、苦勞されたこともあるかと思いますが、大変ためになり有意義な研修でした。

## 2. 各事業詳細 (2)新卒×介護

# 意識変容・行動変容 | インタビューによる成果測定

### 採用向上力研修

研究会に参加する前までは、入職10年目の職員が自法人の強みや特徴を魅力的に説明することができない状況であった。研修参加後は、**学生の前で自法人の説明を実施できるようになった。**また、**研修をきっかけにスタッフが今までのキャリアを振り返ることができ、自法人での働く意義や目的を考えるようになり、モチベーション向上につながっ**

### 社会福祉法人くらしのハーモニー

京都府宇治市に本部を構え、6拠点でサービスを展開している。

12年前より人事研修担当者を配置し、**採用力向上のために様々な施策を実施**されている。

採用力研修では、「自法人の理念や特徴を理解したうえで、自法人の事を話せるようになって欲しい」といった思いより、**20代後半～30代の職員が8名参加した。**

#### <採用力向上研修を通じての成果>

- 自法人のPR方法を学ぶことにより、職員が友人に自法人の魅力を伝える機会が増え、**リファラル採用で1名採用**することができた。
- 説明会で**自法人の説明**を研修参加者が担えるようになった。
- F2Fの取り組みに参加することで、令和2年度には**新卒学生を5人採用**できた。

#### <採用力向上研修を通じての学び>

- 研修を通じて、自法人の理念や法人の軸を整理することができたため、**説明会では表面的な内容ではなく、自法人が大事にしている部分を話す**ことができました。
- 研修を通じて、参加者が**主体的に自法人の内容活動**（採用人物像の設定、OJT内容）に取り組むようになりました。
- 中途職員のため、新卒者と比較すると理念などの理解が曖昧だったが、**研修を通じて自法人で勤務する意味を改めて実感**しました。

## 2. 各事業詳細 (2)新卒×介護 事業総括と今後の課題

### 総括

#### ① 福祉学生の福祉・介護業界への就職意欲をより高めることができた

- ✓ 福祉を学んでいながらも、業界に対して関心・魅力を感じていない学生も一定数いる中で、これらのイベントを通じて学生全体の関心・魅力を高めることができた。特に、既に関心・魅力を感じている層に対して効果的なプログラムであったといえる。
- ✓ 一方で、就職に対する意識変化は、微増にとどまっていた。

#### ② 福祉学生と社会福祉法人がマッチングする場の提供ができた

- ✓ 介護事業を実施している社会福祉法人、福祉学生の双方へ働きかけを行った上で、自社で実施しているマッチングイベントの場に導くことができた。

### 課題

#### ① 介護・福祉への就職意欲の高い学生が、様々な法人と接することが可能な機会の提供が必要である

- ✓ イベント実施前より既に福祉・介護業界への就職意欲が高い学生に対して、より一層業界の魅力ややりがいを伝えるため、様々な法人との関わる機会（施設見学や長期インターンシップ）が必要といえる。

#### ② 福祉・介護業界への就職を希望する学生向けのコミュニティ形成が必要である

- ✓ 福祉・介護業界への就職を希望する学生に対して、コンテンツ提供や最新の業界動向、イベントをシェアできるコミュニティ形成が必要といえる。

1. 介護のしごとと魅力発信等事業（若年層向け）

2. **各事業詳細**

(1)福祉教育事業

(2)介護×新卒事業

**(3)非福祉系大学生事業**

3. 全体総括

## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業 実施概要

- **事業の目的** ※非福祉学生とは、福祉学部及び福祉学科に在籍していない学生と定義する。
  - ・ 非福祉学生の福祉・介護に対する興味・関心を高め、福祉分野への進路・就職を選択肢の1つとする。
  - ・ 社会福祉法人に対して、非福祉学生の重要性及び採用のためのノウハウを共有することで、採用力を目指す。

### ● 実施内容

#### 【非福祉大学生への講座・イベント】

- ・ リアルゼミ 全21回 <早稲田大学> 全8回 <植草学園大学> 全6回 <上智大学> 全7回
- ・ トークライブイベント 全3回

#### 【社会福祉法人向け研究会】

- ・ 法人研究会 全4回

#### 【学生と社会福祉法人との出会い】

- ・ マッチングイベント 全2回

### ● 効果測定の方法

対象：講座・イベント参加学生

内容：参加者の意識変容及び行動変容

手法：WEBのアンケート、インタビュー調査

対象：社会福祉法人向け研究会

内容：参加者の意識変容及び行動変容

手法：WEBのアンケート調査

対象：マッチングイベント参加学生

内容：参加者の意識変容及び行動変容

手法：WEBのアンケート調査



## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業 実施概要 (主要成果)

非福祉系大学生事業にて、以下の成果が得られた。

No	KPI	成果	詳細内容
①	参加者数	「全イベントの延べ参加者」 <b>739名</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リアルゼミ、トークイベント、マッチングイベントに参加した学生数をカウントしている。</li> <li>今回は、非福祉学生の福祉・介護に対する興味・関心を高め、福祉分野への進路・就職を選択肢の1つとすることを目的に開催した。</li> </ul>
②	参加者の意識変容	「福祉に関する関心度合い」 イベント前の意欲度 <b>95.3%</b> ↓ イベント後の意欲度 <b>99.1%</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各イベント後のアンケートにおいて、イベント参加前後の「福祉に対する関心」の度合いに関する質問を行った。</li> <li>質問に対して「非常に興味がある」「興味がある」と回答した割合がイベント前は95.3%であったのに対して、イベント後は99.1%となった。</li> </ul>
		「福祉業界への就職・進学」 イベント前の意欲度 <b>64.6%</b> ↓ イベント後の意欲度 <b>71.3%</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各イベント後のアンケートにおいて、イベント参加前後の「福祉業界への就職・進学意欲」に関する質問を行った。</li> <li>質問に対して「福祉分野への就職・進学を検討している」「福祉分野への就職・進学に興味・関心がある」と回答した割合がイベント前は64.6%であったのに対して、イベント後は71.3%となった。</li> </ul>
③	参加者の行動変容	「採用・施設見学イベントへの移行率」 <b>82.4%</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マッチングイベント参加学生のうち、「今後、採用・施設見学などの選考、イベントに参加したい」と回答した学生の割合は82.4%であった。</li> </ul>

## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業 事業成果の測定

本事業の成果は以下の視点から測定した。

事業成果	測定時期	測定方法
①イベントを通じて、非福祉大学生の福祉・介護に対する興味・関心、福祉分野への就職意欲を向上させることができたか。	イベント終了後	イベント終了後の参加者へのアンケート
②法人向け採用力向上研修を通じて、非福祉大学生の活用方法や採用スキルを向上させ、人材確保に活かすことができたか。	イベント終了後	イベント終了後の参加者へのアンケート
③マッチングイベントを通じて、福祉・介護業界への就職意欲を向上させることができたか。	イベント終了後	イベント終了後の参加者へのアンケート



## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業 スケジュール

実施事項	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①非福祉大学生への 講座・イベント			植草学園 第1回 (10/12) 第2回 (10/26) 第3回 (11/9) 第4回 (11/16) 第5回 (11/30) 第6回 (12/7)					
			早稲田大学 第1回 (10/8) 第2回 (10/29) 第3回 (11/12) 第4回 (11/19) 第5回 (11/26) 第6回 (12/3) 第7回 (12/10) 第8回 (12/17)					
			上智大学 第1回 (10/20) 第2回 (11/10) 第3回 (11/17) 第4回 (11/24) 第5回 (12/1) 第6回 (12/8) 第7回 (12/15)					
						トークライブイベント 第1回 (1/16) 第2回 (2/13) 第3回 (3/6)		
②社会福祉法人向け 研究会			第1回 (10/14)	第2回 (11/13)	研修会 第3回 (12/4)		第4回 (2/9)	
③学生と社会福祉法人の 出会い								マッチングイベント (3/13) (3/14)

## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業 各イベントの実施内容

実施種類	非福祉系大学生への講座・イベント				社会福祉法人への研究会	学生と社会福祉法人との出会い
種類詳細	リアルゼミ 早稲田大学	リアルゼミ 植草学園大学	リアルゼミ 上智大学	トークライブイベント	法人向け研究会	マッチングイベント
延べ開催回数	8回	6回	7回	3回	4回	2回
延べ参加者数	134名	111名	155名	288名	73名	学生51名 法人37名

## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業

### リアルゼミ～早稲田大学～

早稲田大学				
回数	日時	内容	ゲスト	参加者数
第1回	10月8日(木) 14:30～18:00	障害者のリアルとジャーナリズム ～どんな時代に私たちは生きているのか～	野澤和弘さん (毎日新聞客員編集委員/植草学園大学副学長・教授)	28名
第2回	10月29日(木) 14:30～18:00	「依存症」をバッシングする社会の病理	高知東生(俳優) 田中紀子(ギャンブル依存症問題を考える会代表)	18名
第3回	11月12日(木) 14:30～18:00	司法は社会的弱者を守れているか?	山田恵太さん(弁護士)	7名
第4回	11月19日(木) 14:30～18:00	見えない天井～女と政治と障害と	毎田潤子さん(浦安市議)	11名
第5回	11月26日(木) 14:30～18:00	ALSと幸福論～囑託殺人をめぐる	岡部宏生 (NPO法人境を越えて 理事長/ALS患者)	24名
第6回	12月3日(木) 14:30～18:00	生きる～出生前診断が意味するもの	上原祐子さん(ダウン症当事者)	19名
第7回	12月10日(木) 14:30～18:00	「福祉報道」の現場から	上東麻子さん(毎日新聞記者)	15名
第8回	12月17日(木) 14:30～18:00	「罪に問われる障害者」の真実	伊豆丸剛史 (地域生活定着支援センター 厚生労働省専門官)	12名

## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業 リアルゼミ～植草学園大学～

植草学園大学				
回数	日時	内容	ゲスト	参加者数
第1回	10月12日(月) 13:20～14:50	「熱男! 福祉で街をつくる」	竹嶋信洋 (社会福祉士)	21名
第2回	10月26日(月) 13:20～14:50	「障害のある子ども恋をする」	門下祐子 (東洋大福祉社会開発研究センター客員研究員)	21名
第3回	11月9日(月) 13:20～14:50	「小さな声をひろい続けて」	川口正義 (独立型社会福祉士)	21名
第4回	11月16日(月) 13:20～14:50	「障害児のママ、政治家になる」	毎田潤子 (浦安市議)	16名
第5回	11月30日(月) 13:20～14:50	「まちがいたらけの発達障害」	福岡寿 (日本相談支援専門員協会顧問)	16名
第6回	12月7日(月) 13:20～14:50	「もう、スカートははかない」	今井出雲 (相談支援員/東大生OB)	16名

## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業

### リアルゼミ～上智大学～

上智大学				
回数	日時	内容	ゲスト	参加者数
第1回	10月20日 (火) 15:30～19:00	「ADHD」と「仕事と育児の両立」	小島慶子 (タレント/エッセイスト)	28名
第2回	11月10日 (火) 15:30～19:00	「依存」と「真実」	高知東生 (俳優) 田中紀子 (ギャンブル依存症問題を考える会代表)	23名
第3回	11月17日 (火) 15:30～19:00	「障害者家族」と「政治」	毎田潤子 (浦安市議)	18名
第4回	11月24日 (火) 15:30～19:00	「LGBTQ」と「生きづらい社会」	今井出雲 (相談支援員/東大生OB)	24名
第5回	12月1日 (火) 15:30～19:00	「SNSとHSPと私たち」	武田友紀 (HSP専門カウンセラー)	22名
第6回	12月8日 (火) 15:30～19:00	「メディアと障害者」と「境界」	上東麻子 (毎日新聞記者)	18名
第7回	12月15日 (火) 15:30～19:00	「ALS」と「これから」	岡部宏生 (NPO法人境を越えて 理事長/ALS患者)	22名

## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業 トークライブ

日程	内容	延べ参加人数	学生参加者数	学生以外の参加者数
1月16日	まちづくり、建築、デザイの先駆者達をゲストにお迎えして、福祉の境界線について語ります	254名	97名	157名
2月13日	日本の福祉政策に関わってきた3名の福祉実業家がこれからの福祉について語ります	270名	99名	171名
3月6日	身近な存在で身近な言葉である「家族」とはいったい何なのか？「家族」と「福祉」の関係性を当事者に伺いながら紐解いていきます	178名	92名	86名

## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業 社会福祉法人向け研究会

3時間×全4回の非福祉人材活用研修を実施する。当該プログラムでは、非福祉大学生生活用において重要になってくる以下の3点を重点的に研修を実施する。

- ①非福祉人材の必要性及び活用方法
- ②非福祉人材を受け入れる組織マネジメント
- ③非福祉人材採用スキルの向上

No	プログラム	開催日
1	研究会の目的・目標設定、各法人の現状理解	2020年10月14日（水） 13時～16時
2	非福祉人材の研究、各法人の現状理解	2020年11月13日（金） 13時～16時
3	非福祉人材に対して自法人をアピールするためのスキルを習得	2020年12月4日（金） 13時～16時
4	非福祉人材を受け入れるために組織内部の体制づくり	2021年2月9日（月） 13時～16時

## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業 マッチングイベント

### マッチングイベント

社会福祉法人9法人と30人の学生でマッチングイベントを実施する。ゲストトークや法人職員とのグループワーク、座談会を通じて、社会福祉法人での働き方や福祉・介護業界の就職意欲を高める。

### 【実施予定日】

3月13日（土）、3月14日（日） オンラインにて開催

### 【 マッチングイベント タイムテーブル】

時間	内容	詳細
13:00-13:15	オープニング	SOCIAL WORKERS LABについての説明 本イベントのテーマであるMEETingnについての説明
13:15-14:00	ゲストトーク	ゲストとして参加いただいている方より、「社会のために働くとは？」をテーマにお話いただく
14:00-16:45	法人紹介及びグループワーク	ブレイクアウトセッションを使用して学生2名～3名、法人職員2名のグループに分かれて テーマに合わせたグループワークを実施する
16:45-17:00	今後の案内	今後の選考や法人見学、座談会の紹介
17:00-18:00	座談会	学生より法人職員に聞きたい内容を座談会形式で伺う

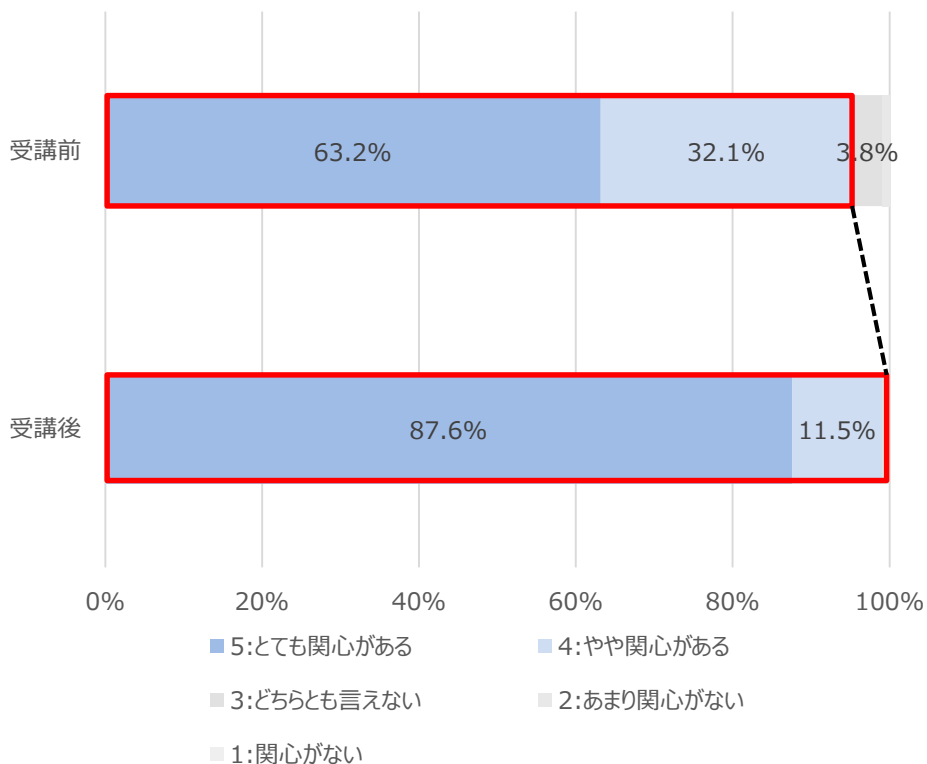


## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業 意識変容 | アンケートによる成果測定

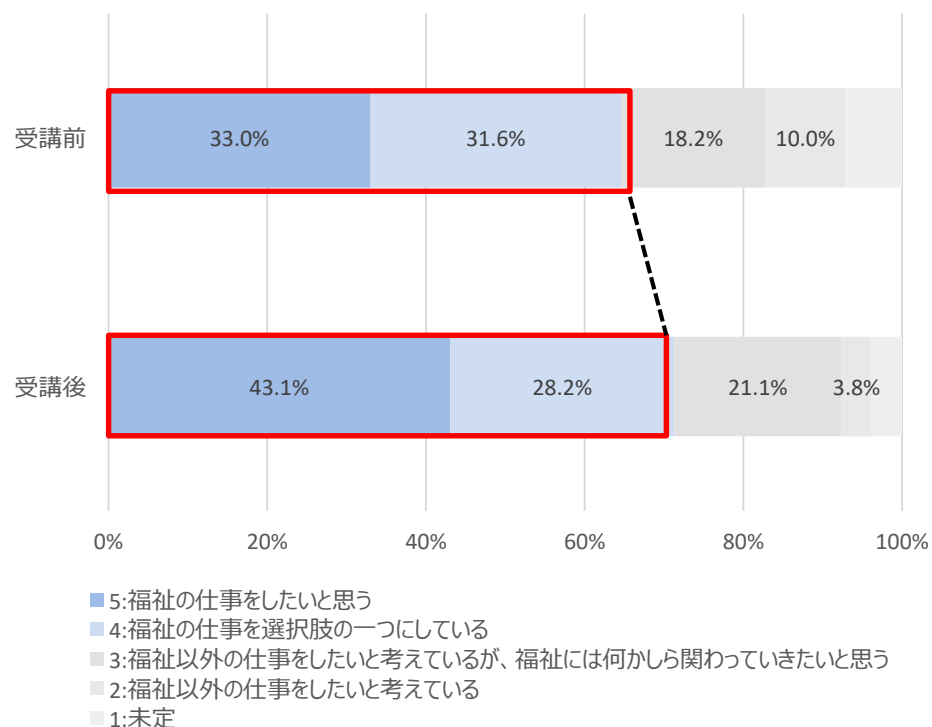
### 全イベント (リアルゼミ・トークイベント・マッチングイベント)

受講後では**99%以上の学生が福祉に対して「関心」がある**と回答しており、**受講前後で「とても関心がある」は約25%増加している**。また、**約72%の学生が「福祉分野への就職」を検討・興味がある**と回答しており、**150人の学生が福祉・介護業界への就職を検討している**結果となった。

福祉に関する関心度合い (n=209)



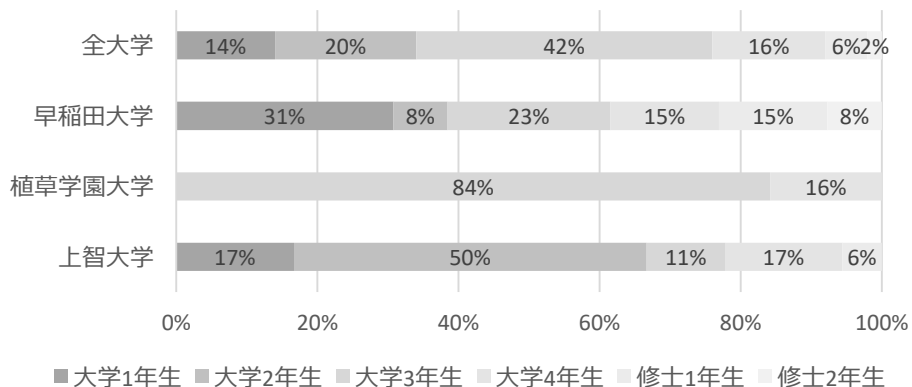
福祉業界への就職・進学意欲度



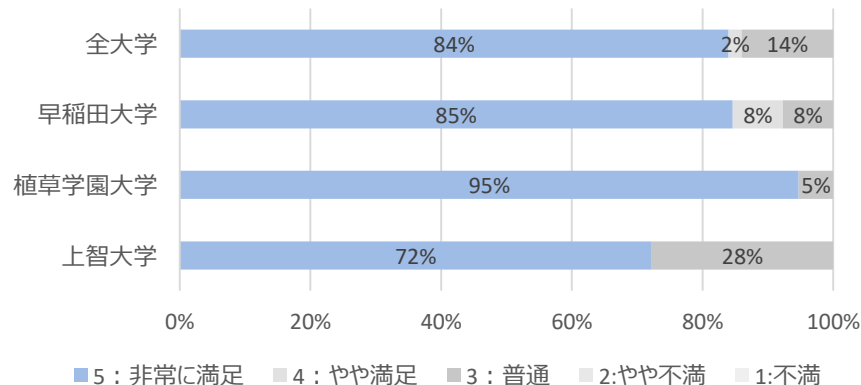
## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業 アンケートによる成果測定

### リアルゼミ | 早稲田大学・植草学園大学・上智大学

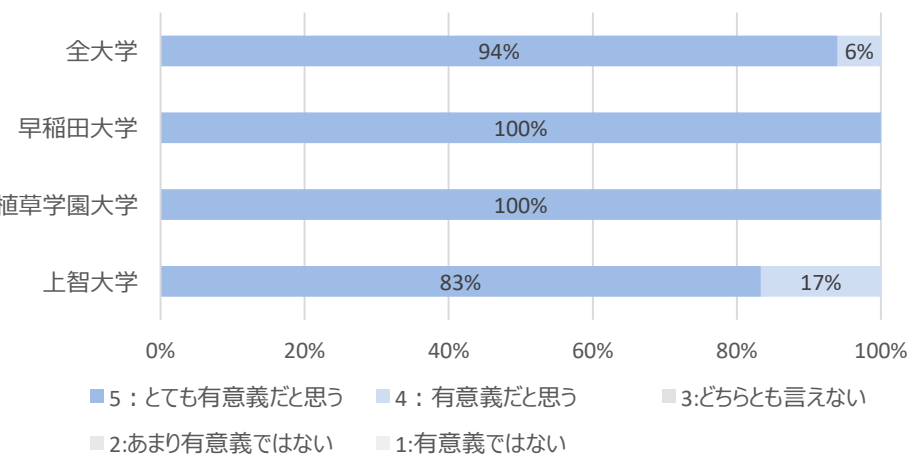
参加者の学年 (n=50)



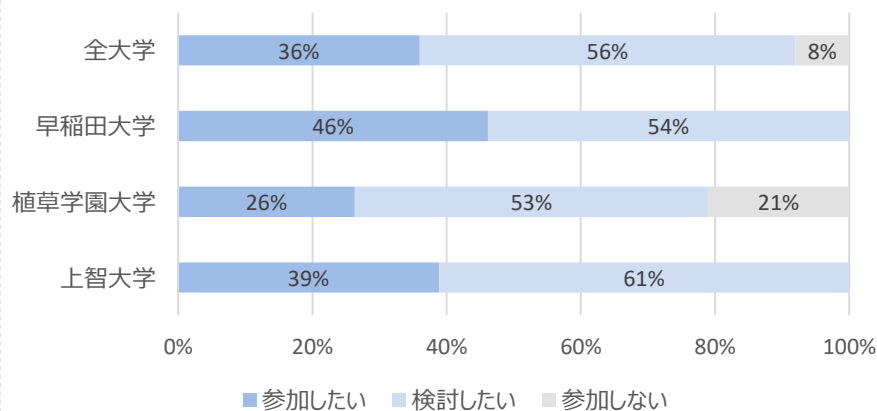
リアルゼミの満足度 (1:低~5:高)



福祉を知る機会の有益性



福祉をより知る機会への参加意欲度

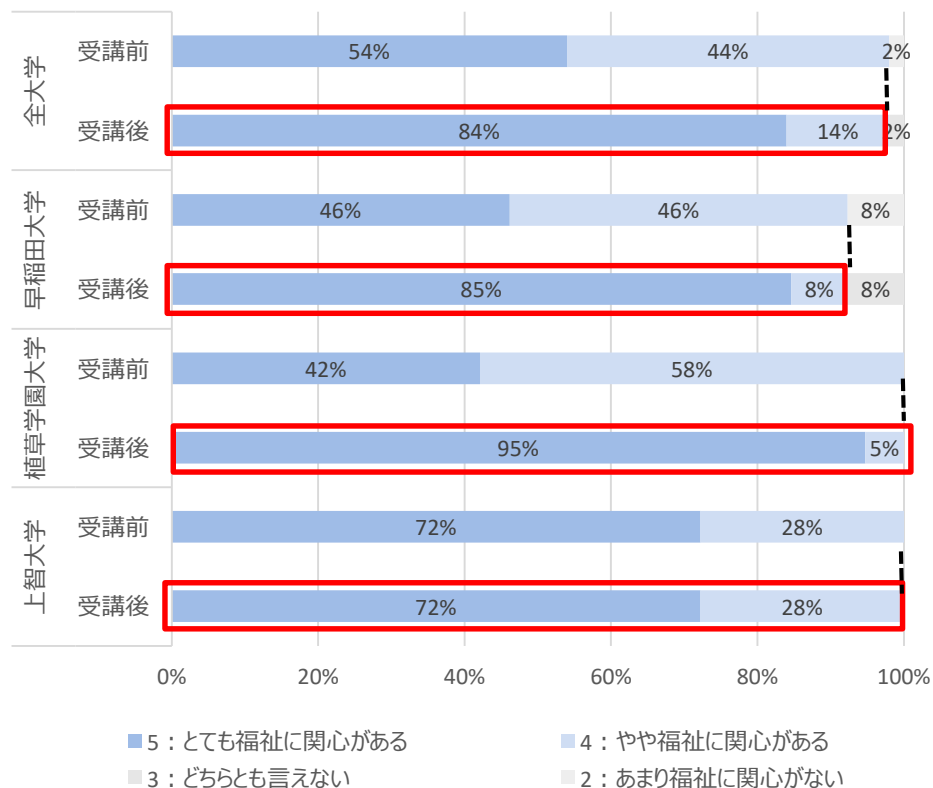


## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業 意識変容 | アンケートによる成果測定

### リアルゼミ | 早稲田大学・植草学園大学・上智大学

受講前後で比較すると「**とても福祉に関心がある**」と回答した学生は**30%増加した**。また、アンケートでは「福祉・介護についてもっと知りたい」といった行動変容を伺えるコメントの記載も見受けられた。

福祉に対する関心度合い



### アンケートを通じて得たコメント（一部抜粋）

- これまでは、関心があっても実際のところはどうなのか？という疑問が常にあり、知識も体験もなにもない自分に何かできることは無いと感じていたが、毎田さんがお話くださったように、まずは**興味を持ってアクセスすることが大切**なのだ、と感じた
- 今まで障害者や福祉に全く関わりがなかった。講義を通じてたくさんの方のことを知り、**もっと知りたいと思うようになった**。
- **福祉は自分に無縁、もしくはあまり関係のないものだ**、と思っていたが、このゼミを通して、**意外と身近なものである**と気づいたから。
- 元々福祉に興味はあったが、何も知らず、**知らない間に偏見を持っていた**のが反省させられました。当事者たちの言葉を聞き、**もっと自分が福祉の世界に何ができるのか改めて考えるよう**になりました。

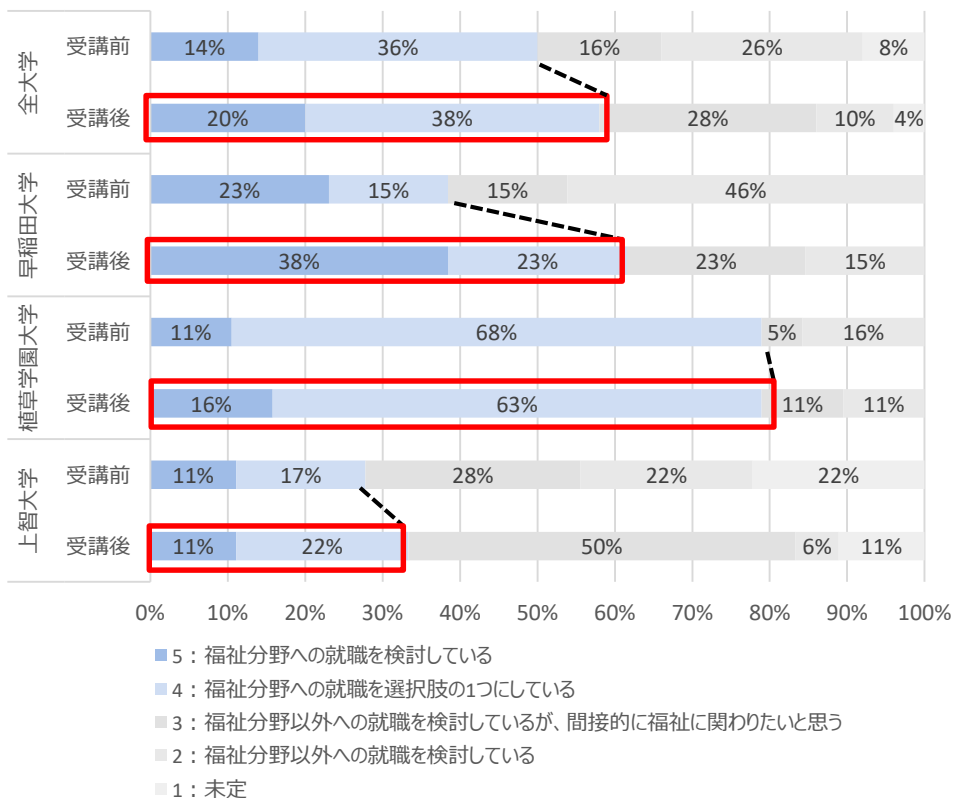
## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業 意識変容 | アンケートによる成果測定

### リアルゼミ | 早稲田大学・植草学園大学・上智大学

受講前後で比較すると「福祉分野への就職を検討・選択肢としている」と回答した学生は8%増加した。

受講後では「就職を検討している」学生は6%増加し、「選択肢の1つとしている」学生は2%増加しており、**約30人の学生が福祉・介護業界への就職を検討・選択肢の1つとしている。**

福祉への就職意欲（1：低～5：高）



アンケートを通じて得たコメント（一部抜粋）

- 福祉に対して無知であった受講前と比べ、**福祉への認識の解像度が上がり、興味を持つことが出来たから。**
- 福祉の重要性を知るようになったことが理由です。就職についてもどのような職業が福祉に貢献できるのか、直接的にも間接的にも**福祉分野に貢献できればと感じるようになりました。**
- 受講前よりも、**困難を抱える方々の力になりたいと思うようになった。**
- とても魅力のある分野だ**と感じていて、自分のやりたいことと重ね合わせながら決めていこうと思っているため。
- 今回の授業を受けた中で、**発達障害について学ぶ回があったため通常学級の中の支援を必要とする子についてより考えるようになったから。**
- 早く自分も現場に出て実践してみたいと思いました。**特に発達特性をもつ子どもに対しては、認め褒めるという活動を多く行い、自分が教えられる期間でなんとか他人から認めらる強みをつまのばすことができるように取り組みたいと思いました。

## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業

### 意識変容・行動変容 | インタビューによる成果測定

リアルゼミ | 早稲田大学・植草学園大学・上智大学

元々福祉・介護は身近な存在だったが、受講前は**一般企業への就職を検討していた**。授業を受講することで当事者や様々な知見を知り、「**障害者のサポートができる仕事につきたい**」と考えるようになった。

今後は先進的な活動をしている**法人へ訪問**もしていきたいと考えている。

#### 植草学園大学 4年生 cさんの事例

家族構成：父親、母親、弟の4人家族

福祉との接点：弟が発達障害のため、福祉・介護は身近な存在であった

就職希望：福祉・介護業界ではなく、**一般企業（コンサル業界）**を希望

#### <授業を通じて感じたこと、学んだこと>

- 授業を通じて、いろいろな人の考え方や見解を知ることができた。自分自身も以前より気になっていた就労支援の賃金改善を通じて、**障害者のサポートができる仕事につきたい**と考えるようになった。
- また、**当事者だけではなく、障害者の親や地域の人たちもサポートできるような体制**を作っていきたいと考えている。
- 受講前までは一般企業への就職を考えていたが、**受講後は福祉分野への就職を考える**ようになり、授業での講演が就職選択のきっかけとなった。
- 当事者の話を伺うことは、文献などで学ぶよりリアルで考えさせられる部分が多いため、**非常に有意義**であった。

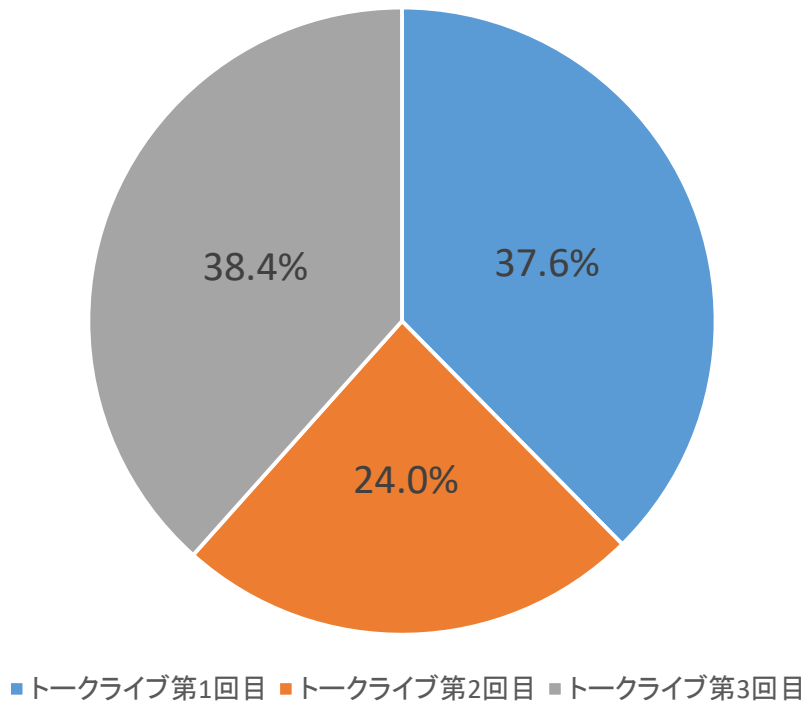
#### <授業受講以降で行動したこと>

- 両親と授業内容の事や弟の事、**障害分野の事を話した**。
- 親から他の地域での**障害者の活躍事例を伺い自分でも調べることにした**。特に印象的だったことは、発達障害の人がワーバーイーツを積極的に行っている事例である。**自分も関与してみたいと感じ、今後訪問なども検討している**。

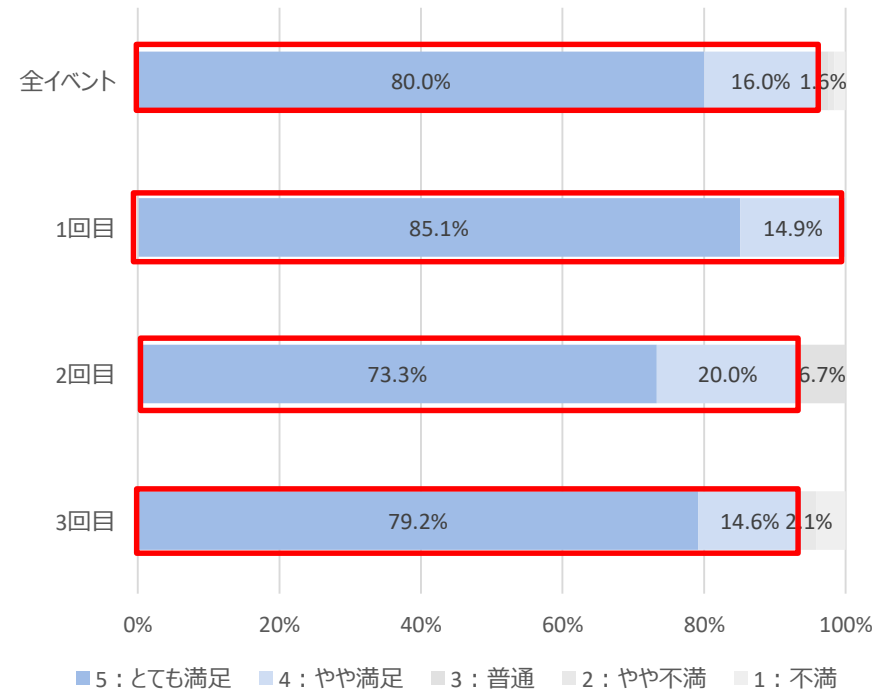
## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業 アンケートによる成果測定

### トークイベント

イベント参加者割合 (n=125)



満足度

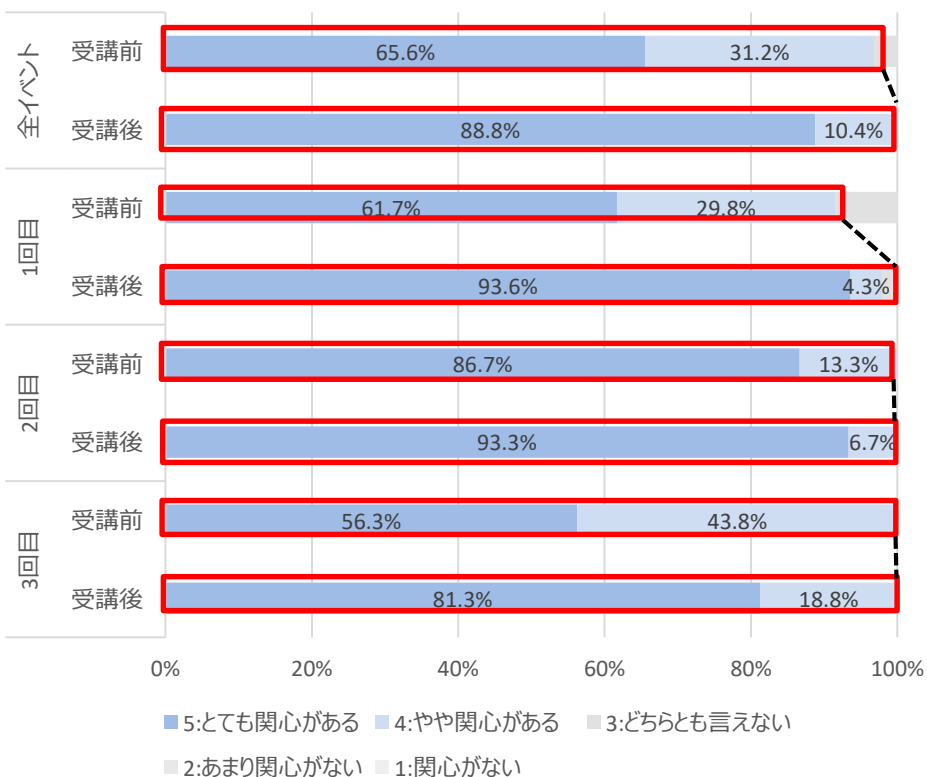


## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業 意識変容 | アンケートによる成果測定

### トークイベント

受講後では**99%以上の学生が福祉に対して「関心」がある**と回答している。受講前後で比較すると**「とても関心がある」と回答した学生は23.2%増加した**。また、アンケートでは**「イベントをきっかけ福祉に対する考え方が変わった」**といった意識変容の記載も見受けられた。

福祉に対する関心度度合い



アンケートを通じて得たコメント（一部抜粋）

- 福祉とは、人々が心身共に幸せに生きるという本来の目的に気がつけたことから、医療だけではなく様々な角度から人との繋がりと、居場所を作って幸せに生きることから、**自分も当事者になりうることから関心が増しました。**
- 福祉に興味があって福祉の学科に入学したのに、**最近なんか違うのかな**と思い始めていました。でも今日参加したことで、私が違うなと思っていたのは、福祉をあまり知らない人がイメージする、the 福祉 のようなイメージが苦手だなと感じているのが原因なのではないかと思いました。**今日のおかげで、福祉に対して、やはりもっと知っていきたい、深掘りしていきたいという気持ちが大くなりました。**
- 福祉という仕事を身近に、**ポジティブ**なものに感じられるようになりました。

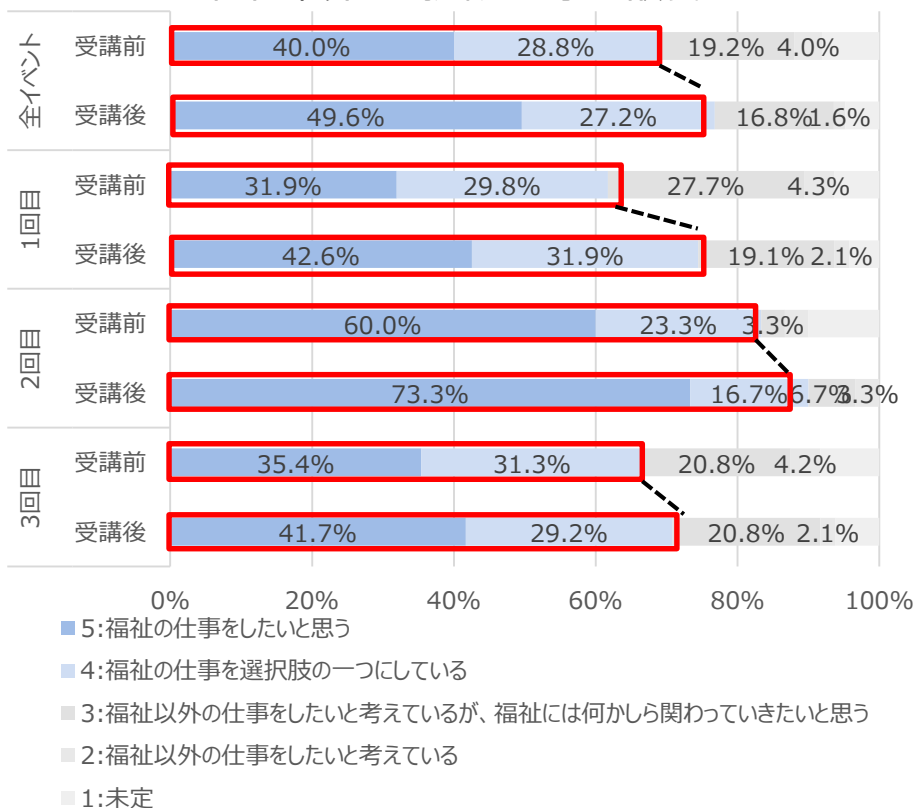
## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業 意識変容 | アンケートによる成果測定

### トークイベント

受講前後で比較すると「福祉の仕事をしたい・選択肢としている」と回答した学生は8%増加した。

受講後では「福祉の仕事をしたい」学生は約10%増加しており、**96人の学生が福祉・介護業界への就職を検討・選択肢の1つとしている。**

福祉業界への就職・進学意欲度



アンケートを通じて得たコメント（一部抜粋）

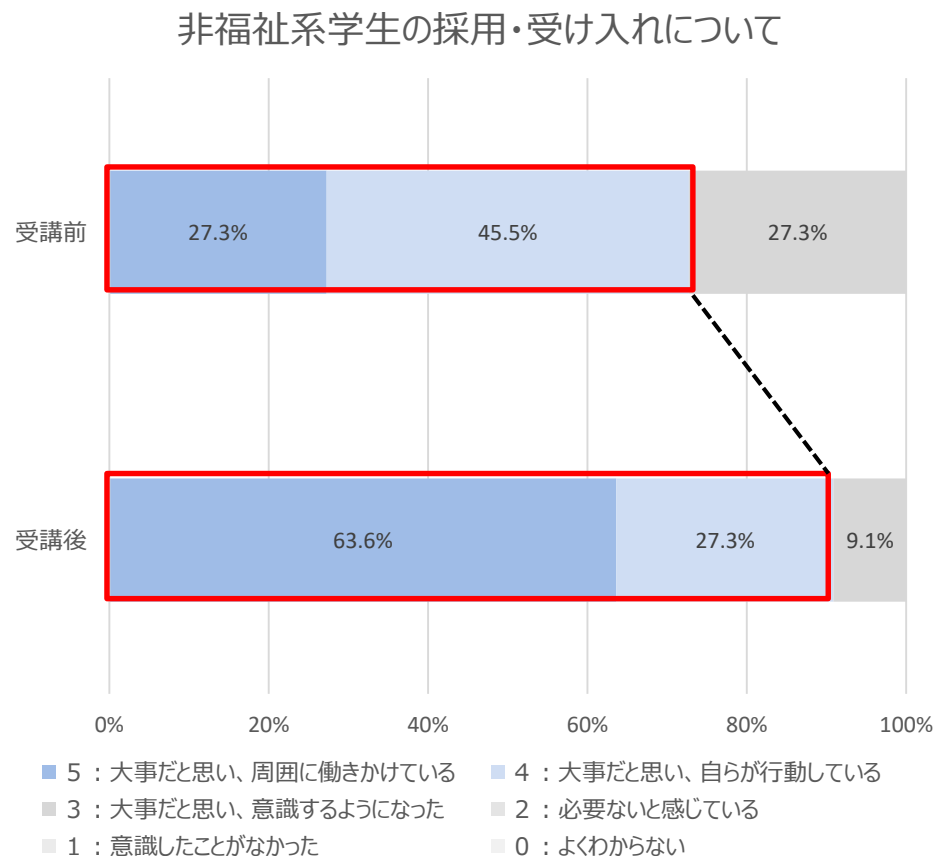
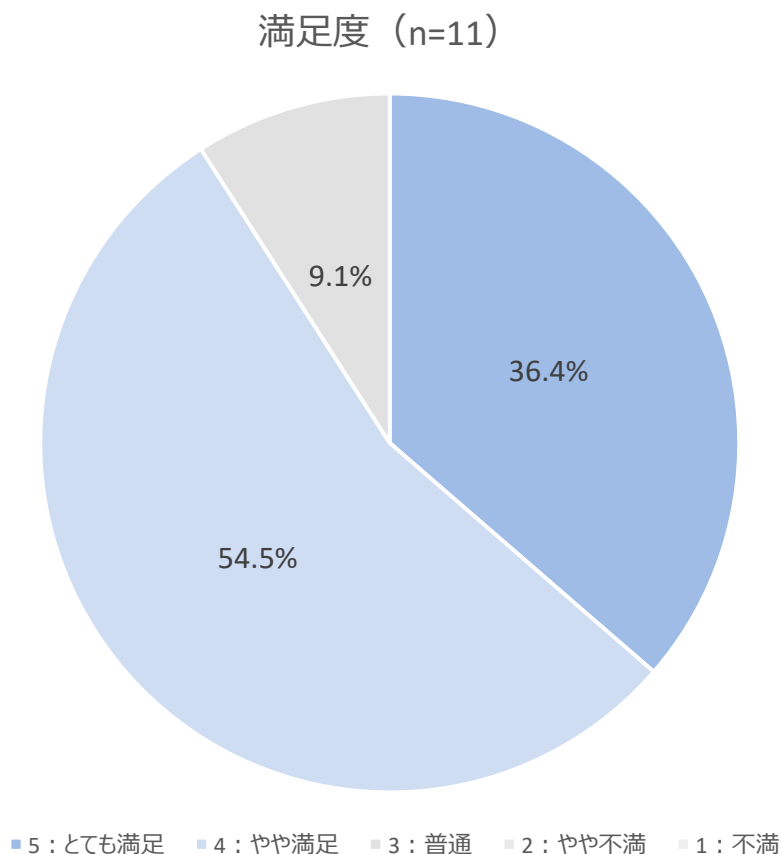
- 福祉を仕事にすることに関しては、まだ考えていきたいと思うし、選択肢の一つに入れたいと考えているが、何かしら自分自身もできることがあるのであれば関わっていきたいと思う。
- 今までのイベントを通して福祉に少しでもふれる機会を作っていたが、**福祉のお仕事に進んでみる動機のひとつ**にもなりました。
- 「**福祉の仕事をしたい**」という気持ちは高まり、また今日の話をきいて、「福祉」に対するイメージもかなり広がったため**選択肢も広がったような**気がしている。
- 前回のイベントで私なりの**福祉をやりたい**と感じましたが、さらにそう感じました。



## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業 意識変容 | アンケートによる成果測定

### 法人研究会

全体の約**91%以上**が本研究に対して「**とても満足**」「**やや満足**」と回答している。また、**90%以上の法人**が「**非福祉系学生の重要性を認識し、行動している**」と回答しており、**参加法人の多くで非福祉学生を採用するための行動が実施された**。

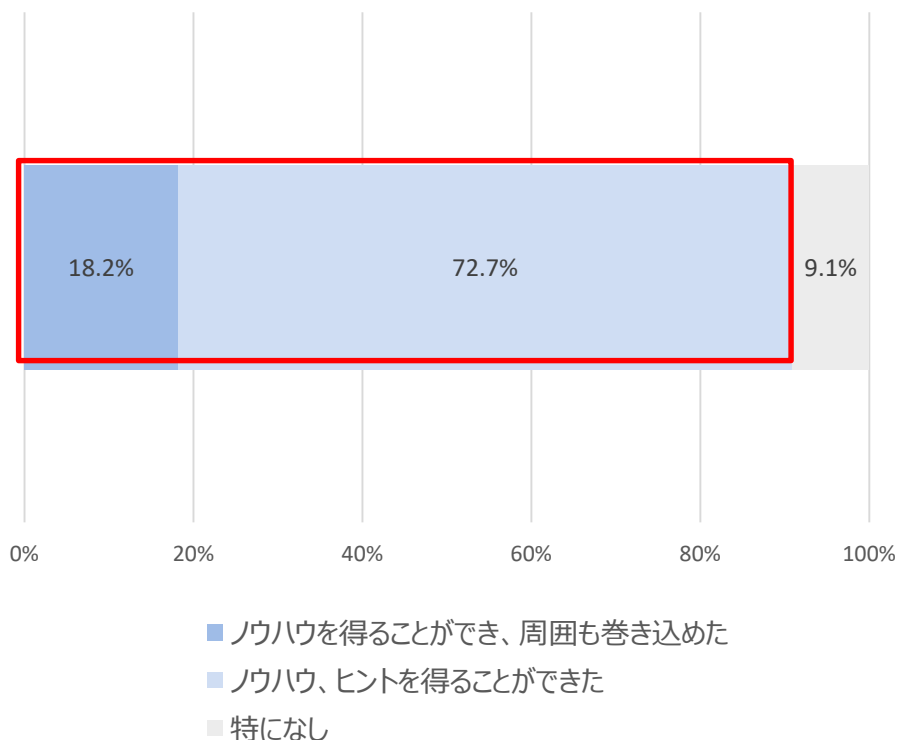


## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業 意識変容 | アンケートによる成果測定

### 法人研究会

全体の約**91%以上**が本研究に対して「**非福祉学生の採用に関するノウハウやヒント**」を得ることができたと回答している。また、**約20%**の法人は「**参加者だけではなく、周囲も巻き込めた**」と回答しており、**研究会の効果は法人全体へと波及している**ことが伺える。

ノウハウや法人内変化の有無



アンケートを通じて得たコメント（一部抜粋）

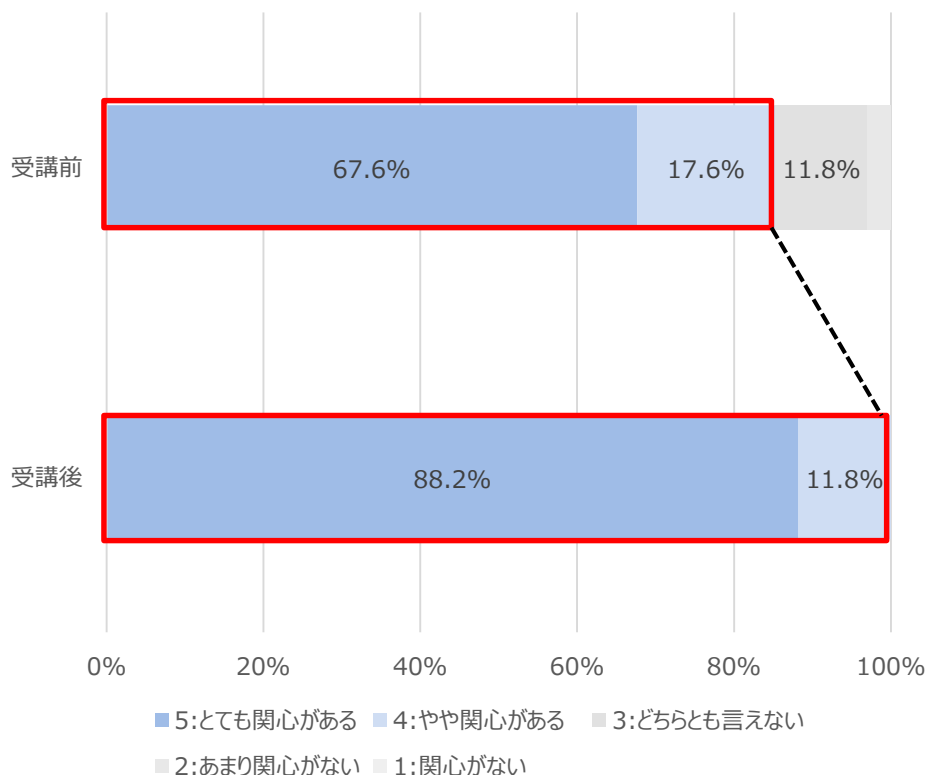
- **法人内での化学変化**がとても大きい。現場支援担当者の育成の枠を超えて、法人組織のありようについて、**現場管理者と話をすることができる空気**になってきている。
- これまで、「**たまたま非福祉系の人材を採用**」したことはあったが、この研究会を通じて**意図的に非福祉系の採用を検討**するようになった。
- 昨年度までの**採用手法をガラッと変え**、ダイレクトリクルーティング中心の採用に変化させました。

## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業 意識変容 | アンケートによる成果測定

### マッチングイベント

受講後参加学生全員が福祉に対して「とても関心がある」「やや関心」があると回答しており、参加者全員が福祉に対して興味・関心を持っていただける結果となった。受講前後で比較すると「とても関心がある」学生は約21%増加している。

福祉に関する関心度 (n=34)



アンケートを通じて得たコメント (一部抜粋)

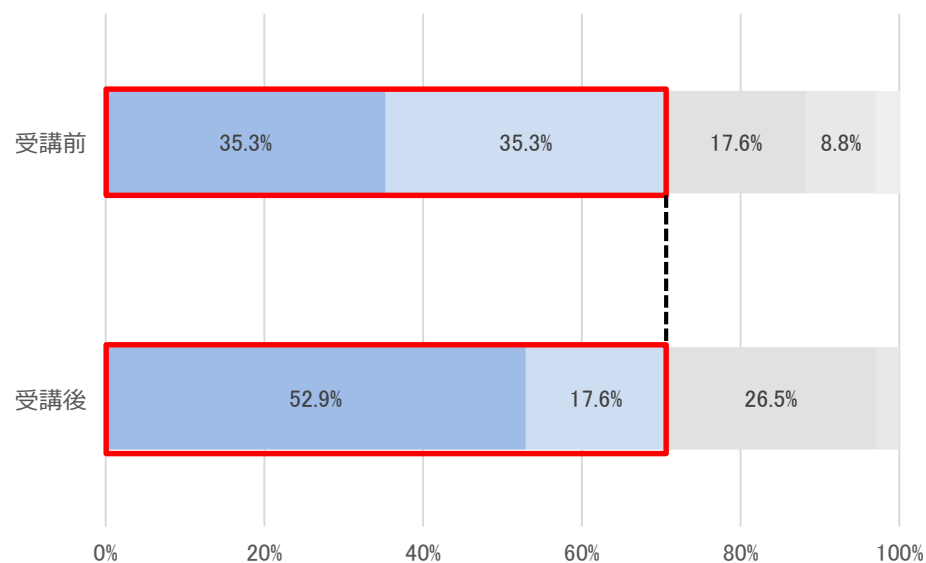
- 福祉は面白いなと思いました。これから進化していく分野だからこ  
そいろんなことができると思いました。福祉法人の職員の方々に  
座談会などで個人的なアドバイスをもらったのもよかったです。
- 福祉という言葉に、「自分とは関係ない」と勝手に壁を作ってい  
ました。しかし、高齢者や障害者のために現場で働いている方と  
の対話をして、若い僕たちでも働くことが可能だということを知る  
ことができました。

## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業 意識変容 | アンケートによる成果測定

### マッチングイベント

受講後約71%が福祉に対して「福祉の仕事をしたい」「選択肢の1つとしている」と回答し、約24人の学生が福祉・介護の仕事を検討している結果となった。また、受講前後で比較すると「福祉の仕事をしたい」学生は約18%増加している。

福祉業界への就職・進学意欲度



- 5:福祉の仕事をしたいと思う
- 4:福祉の仕事を選択肢の一つにしている
- 3:福祉以外の仕事をしたと考えているが、福祉には何かしら関わっていきたいと思う
- 2:福祉以外の仕事をしたと考えている
- 1:未定

アンケートを通じて得たコメント（一部抜粋）

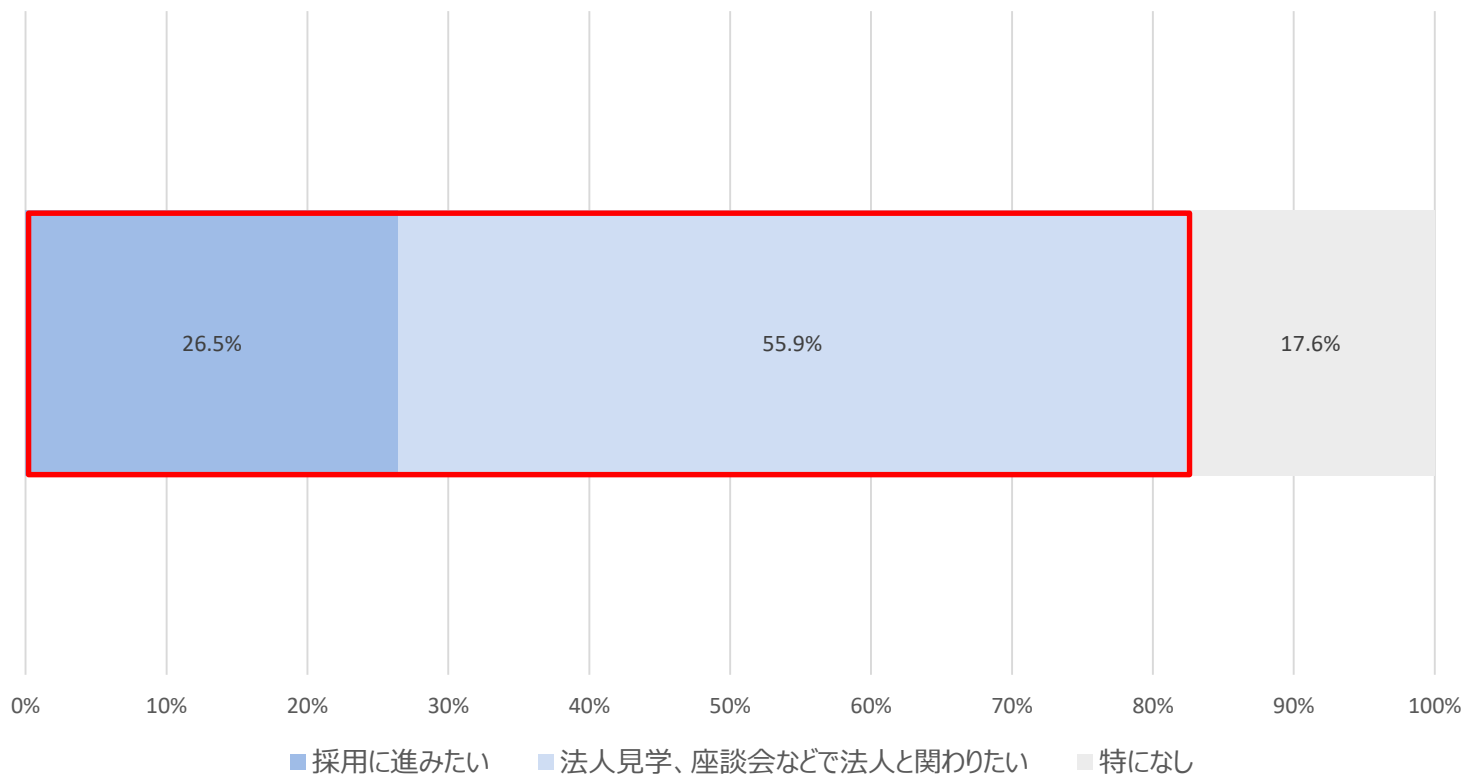
- よりもっと、自分の目で福祉というのを知りたいと思いました。
- 具体的にどこで働くかについて情報収集をはじめようと思いました
- 就活をする中で迷いも出てきていましたが、やはり福祉の仕事しようと思えました。
- 福祉を探求していくような仕事に就きたいと強く感じています。

## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業 行動変容 | アンケートによる成果測定

### マッチングイベント

受講後では**約83%の学生**が今後も参加法人と何かしらで関わりたいと回答している。また、**約30%の学生が説明会や採用選考にエントリーしたい**と回答している。

今後、参加法人との関りについて



## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業

### 意識変容・行動変容 | インタビューによる成果測定

#### トークイベント

本イベント参加当初は、福祉に関してあまり興味がなかった。イベントに参加することで自身の就職活動の軸である「人の人生設計に関わる」が達成できるという点と**福祉・介護の魅力や業務内容を理解**することができたため、**福祉・介護業界への就職を希望するようになった。**

#### 関西学院大学 3年生 cさんの事例

福祉との接点：特になし。

就職希望：住宅メーカーや不動産業界

#### <イベントを通じて感じたこと、学んだこと>

就職活動の軸として、人の人生設計に関わっていきたい、長く人と関わることが可能な仕事に就きたいと考えていた。今回のイベントを通じて、福祉の魅力や業務内容を理解することができたため、**福祉への就職意欲が非常に高まった。**

福祉・介護業界へ就職した際は、日本の福祉・介護のイメージを変えることを目標にして働いていきたいと考えている。

#### <イベント受講以降で行動したこと>

イベント終了後すぐに、F2Fで学生インターンを実施している学生に「**福祉・介護業界での就職を検討している**」と伝えた。今後は、参加法人と話を伺う機会を設けながら、**施設見学や現場体験**などを実施していき、具体的な選考フローを進んでいく予定である。

## 2. 各事業詳細 (3)非福祉系大学生事業

### 事業総括と今後の課題

#### 総括

##### ① 非福祉学生に対して、福祉・介護に対する興味・関心を向上することができた

- ・これまで、福祉を専門に学んでいない学生に対して、まちづくり、建築、デザイン、家族、シェアなど様々な観点から福祉・介護の魅力を伝えることにより、福祉・介護に対する興味・関心を高めることができた。
- ・当事者の話を聞くことや社会福祉法人とこれからの福祉について語ることで直接的な関りが増え、興味・関心を広げることができた。

##### ② 非福祉学生の福祉・介護業界への就職意欲をより高めることができた

- ・非福祉系学生に対して、イベントを通じてより福祉・介護業界への就職意欲を高めることができた。特に、元々関心・魅力を感じている層に対して効果的なプログラムであったといえる。

##### ③ 非福祉学生と社会福祉法人がマッチングする場の提供ができた

福祉・介護事業を実施している社会福祉法人、非福祉学生の双方へ働きかけを行った上で、マッチングイベントを開催することにより、非福祉学生の83%以上が参加法人の説明会や施設見学などを希望するといった意識変容を起こすことができた。

#### 課題

##### ① 単年度で完結せず、介護・福祉に興味を持った学生を就職までつなげる仕組みが必要である

- ・本イベントを通じて、福祉・介護への興味・関心が高まった学生に対して、介護業界の業務内容ややりがいを知ってもらえるために施設見学や介護体験ができる環境を整える必要がある。
- ・学生が体験する機会を参加法人と共に企画することで、参加法人が非福祉系学生の活用方法や採用スキルを向上させることを目指す。
- ・参加学生同士が横でつながることのできる機会を提供する。

##### ② 今年度の結果を活かし、イベントや活動の広報に力を入れる

- ・今年度は、WEBサイトやSNSを活用することで、一定の成果が得られた。次年度も継続的に情報を提供できる仕組みの構築を目指す。
- ・これまでの企画したイベントをリソースに動画を作成し、広報に活かしていく。



1. 介護のしごとと魅力発信等事業（若年層向け）

2. 各事業詳細

(1)福祉教育事業

(2)介護×新卒事業

(3)非福祉系大学生事業

3. **全体総括**



## 2. 総括 事業全体の総括

### 総括

#### ① 若者の福祉に対する興味・関心を向上させることができた

- ✓ 介護だけではなく、福祉という幅広い枠組みで捉え、参加者の日常と福祉を繋げることにより、福祉学生・非福祉学生の両者に対し、授業・イベント前よりも福祉・介護に対する興味・関心を高めることができた。

#### ② 法人と学生が出会う場を創造することで、進学・就職の選択肢とすることができた

- ✓ 福祉・介護に対する興味・関心が高まった学生に対して、社会福祉法人とのマッチングイベントを開催することにより、一定数の学生が採用説明会や選考フローに応募する結果となった。また、就職や進学の対象ではない学生に対しては、中長期的な関係性の構築としてLINE@や施設見学などのコミュニティ形成及びイベントの企画も実施している。

### 課題

#### ① 個別の対話を通じて、介護・福祉に興味を持った学生を就職までつなげる仕組みが必要である

- ✓ 本イベントを通じて、福祉・介護への興味・関心が高まった学生（特に進学、就職の対象ではない低学年）に対して、介護業界の業務内容ややりがいを知ってもらえるために施設見学や介護体験ができる環境が必要といえる。
- ✓ また、学生にとって大規模の就職セミナーだけでは、自分のニーズや希望に合った法人を選定することが難しいため、法人と学生が個別にやり取りができるプラットフォームが必要である。

#### ② 福祉・介護業界への就職を希望する学生向けのコミュニティ形成が必要である

- ✓ 福祉・介護業界への就職を希望する学生に対して、コンテンツ提供や最新の業界動向、イベントをシェアできるコミュニティ形成が必要といえる。

#### ③ オンラインと対面のハイブリッド型の提供が求められる

- ✓ コロナウイルスの終息後は、対面での実施に加え、遠方の学生も参加できるような仕組み化が必要となってくる。また、対面では可能であった学生同士のコミュニケーションをどのように生み出していくかも求められてくる。